宮永市遺跡発掘調査報告

1989年３月

石川県立埋蔵文化財センター

宮永市遺跡発掘調査報告

1989年３月

石川県立埋蔵文化財センター

例　　言

1．本書は、石川県松任市宮永市町に所在する遺跡の発掘調査報告書である。

2．調査は、1985年度県営圃場整備事業旭地区の施工に伴って、石川県農林水産部耕地整備課から依頼を受けて、1985年７月１日～８月１日にかけて、排水路工事で遺跡が破壊される部分を調査した。

3．調査は、以下の職員が担当した。

石川県立埋蔵文化財センター　　主査　小嶋芳孝

主事　藤田邦夫

4．調査の実施に当たって、横山貴広氏の協力を得た。

5．出土資料の整理は、㈳石川県埋蔵文化財保存協会に委託して行った。

6．本書の編集は、小嶋が行った。（瓦については、木立雅朗が執筆した。）

7．今回の調査に係る資料は、石川県立埋蔵文化財センターに保管している。

8．調査の実施に当たって、松任市宮永市町周辺の皆さんの協力を得た。記して感謝の意を表します。

Ⅰ　位置と環境

宮永市遺跡は、石川県松任市の西北部に位置している。松任市は、石川県の県都金沢市の南郊に位置し、人口が約55,000人・面積は59.75㎢で、耕地面積は3,880haである。近年は、金沢市のベッドタウンとして住宅地の開発や、工場の建設が盛んであるが、元来は手取扇状地に広がる農地を生活基盤とした穀倉地帯である。扇状地を流れる手取川の分流を利用した用水を網の目のように張り巡らした七ヶ用水の建設や、耕地整理の実施など、近代以降の農地開発事業によって水田経営の生産性が飛躍的に増大している。

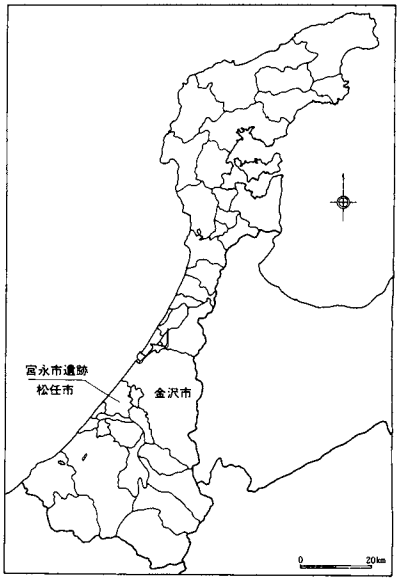


Fig. 1　宮永市遺跡の位置

手取扇状地は、白山に源を発する手取川が形成した大規模な扇状地である。現在の手取川の流路は、手取谷の出口の鶴来町を出ると大きく南にカーブして扇状地の南端を流れている。しかし、文献資料などの検討では鶴来町から真っ直ぐに流れる現在の大慶寺用水が、中世以前の流路であったと指摘されており、宮永市に遺跡が営まれていた当時は手取川が現在よりも近いところを流れていたようである。

宮永市遺跡は、海抜10m前後の扇状地に位置している。Fig. 3は、周辺の遺跡分布図である。野々市町御経塚遺跡に代表されるように、縄文時代後期から晩期の大型遺跡が、海抜10m前後の低地に点々と営まれている。宮永市遺跡の周辺では、八田中遺跡周辺に縄文晩期から弥生前期の遺跡が集中して調査されている。弥生時代中期の遺跡は、前期と同じように八田中遺跡の周辺で比較的多く検出されている。宮永市遺跡に人々が足跡を残した弥生時代後期は、手取扇状地でも最も遺跡の数が増えた時代であった。宮永市遺跡の周辺では、宮永坊ノ森遺跡・竹松遺跡など、土器散布地の調査をするとほとんどの遺跡から当該時期の土器が出土しており、弥生時代後期の遺跡密度がかなり高く、現在の集落密度と近似していたようである。宮永市町と宮永町から東南側は松任市の市街化調整区域に入り、遺跡の分布状態が十分に把握されていないが、比較的調査の進んでいる松任市東側の野々市町末松周辺では、宮永市遺跡周辺に見られるような弥生時代後期の遺跡高密度分布は見られない。宮永市遺跡では、奈良・平安時代の遺物は極く少量を検出しているにすぎず、また、中世や近世の土器も若干量を検出したのみである。周辺の遺跡では、竹松遺跡では1986年度の県営圃場整備事業に伴う調査では、奈良時代の竪穴式建物を検出している。また、松任市横江町では東大寺領の荘園関係の遺跡と推定できる横江遺跡がある。横江遺跡では、弥生時代中期から平安時代中期の間に断続的に遺跡が営まれ、特に、東大寺の荘園が設定された奈良時代末から平安時代前半に大型の建物群や倉庫群が多数建てられていた事が近年の調査で明らかになってきた。中世には、宮永坊ノ森遺跡周辺に寺院があったという伝承があるが、松任市周辺の扇状地には寺院や館跡の伝承地が多数確認されている。しかし、これらの伝承地が考古学

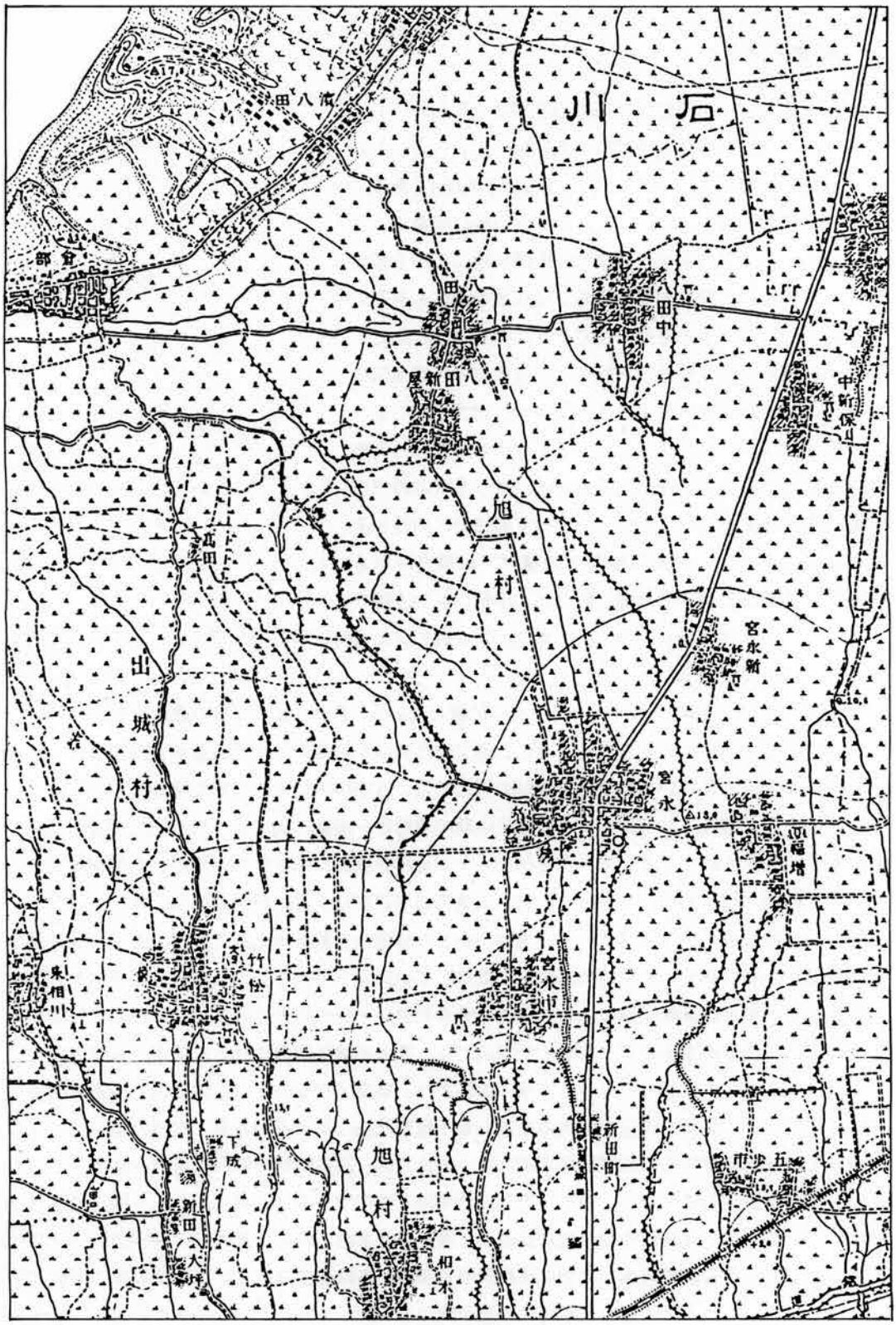
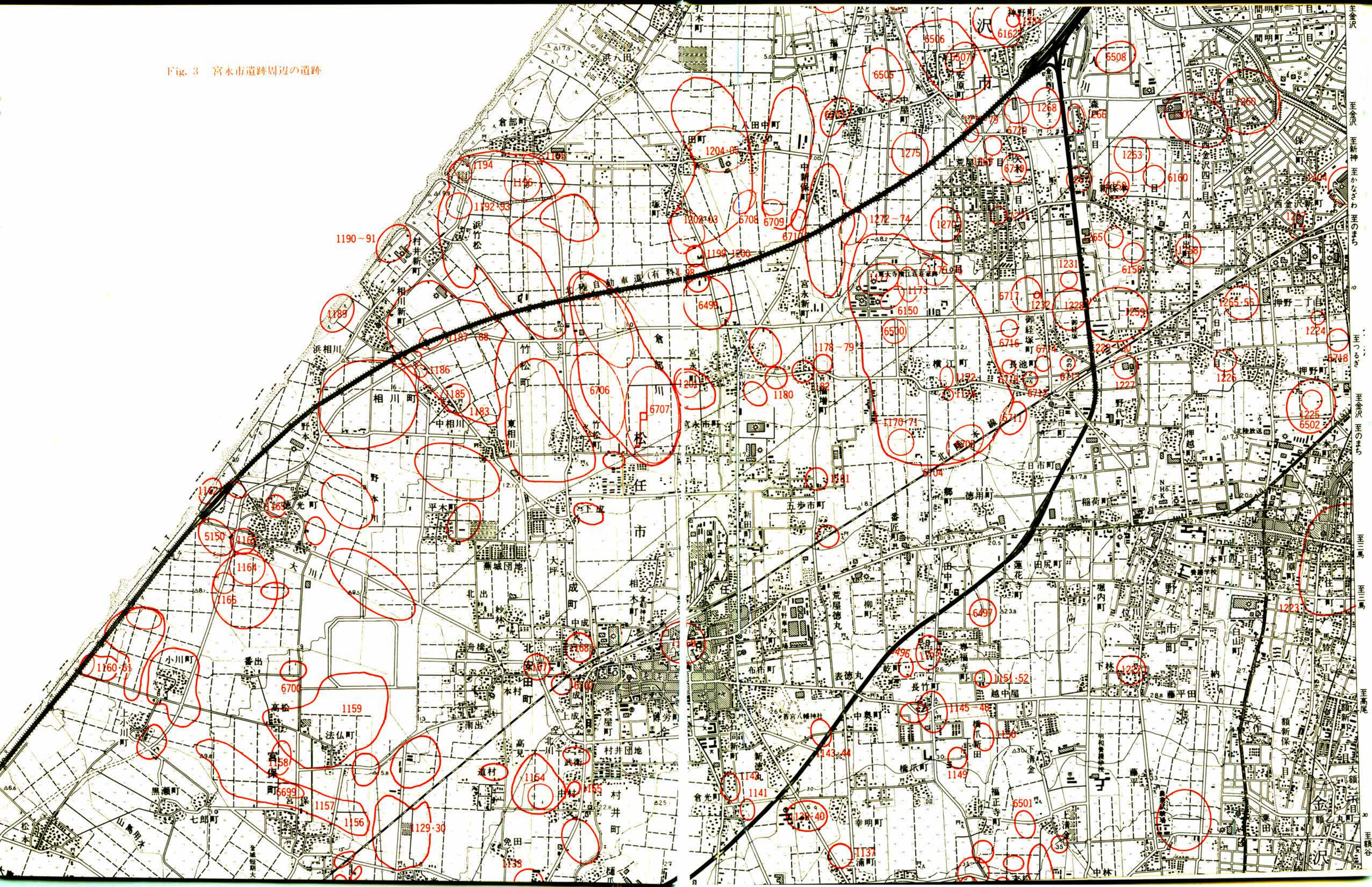


Fig. 2　宮永市遺跡周辺の旧地形図（1：20,000）

Fig. 3　宮永市遺跡周辺の遺跡



番号	名称	所在地	時代
1143	幸明経塚	松任市幸明	不詳
1158	鶴丸館跡	松任市宮保	不詳
1163	御光遺跡	松任市御光	不詳
1164	アベノ願証寺跡	松任市御光	不詳
1165	大和隼人館跡	松任市御光	不詳
1167	安田三郎憲光館跡	松任市成	不詳
1172	横江館跡	松任市横江	不詳
6498	乾町遺跡	松任市乾	不詳
6503	福増遺跡	金沢市福増	不詳
6704	横江D遺跡	松任市横江	不詳
6706	竹松C遺跡	松任市竹松	不詳
1145	長竹遺跡	松任市長竹	縄文
1150	楯爪遺跡	松任市楯爪	縄文
1151	高田遺跡	松任市専福寺	縄文
1162	御光遺跡	松任市御光	縄文
1170	ゴクラク寺跡	松任市横江	縄文
1175	ジョウガンジ遺跡	松任市横江	縄文
1178	福増遺跡	松任市福増	縄文
1204	八田中雁田川遺跡	松任市八田中	縄文
1227	野代遺跡	野々市町野代	縄文
1228	御経塚遺跡	野々市町御経塚	縄文
1283	新保本チカモリ遺跡	金沢市新保本	縄文
1266	森戸本町遺跡	金沢市森戸	縄文
1267	森戸住宅遺跡	金沢市森戸	縄文
1269	矢木本町遺跡	金沢市矢木	縄文
1270	上荒屋遺跡	金沢市上荒屋	縄文
1272	下福増遺跡	金沢市下福増	縄文
1275	中屋遺跡	金沢市中屋	縄文
1302	古府遺跡	金沢市古府	縄文
6161	南塚遺跡	金沢市新保本	縄文
6712	長池キタバシ遺跡	野々市町長池	縄文

番号	名称	所在地	時代
6499	宮永B遺跡	松任市宮永	縄文・古墳・中世
6709	八田中ヒエモンダ遺跡	松任市八田	縄文・中世
1173	横江A遺跡	松任市横江	縄文・奈良・平安
6500	横江アズキダ遺跡	松任市横江	縄文・弥生・古代・中世
1202	一塚遺跡	松任市一塚	縄文・弥生・古墳
6717	御経塚シンデン遺跡	野々市町御経塚	縄文・弥生・古墳
1146	長竹遺跡	松任市長竹	弥生
1179	福増遺跡	松任市福増	弥生
1189	浜相川相川新遺跡	松任市相川新	弥生
1190	相川新雁田川遺跡	松任市相川新	弥生
1199	旭小学校遺跡	松任市宮永	弥生
1255	押野西遺跡	野々市町押野	弥生
1265	新保本町塚田遺跡	金沢市新保本	弥生
1271	上荒屋住宅遺跡	金沢市上荒屋	弥生
1273	下福増遺跡	金沢市下福増	弥生
1278	上安原腺橋遺跡	金沢市上安原	弥生
6699	宮保遺跡	松任市宮保	弥生
6710	八田中アレチ遺跡	松任市八田中	弥生
6714	御経塚ヤトメ遺跡	野々市町御経塚	弥生
6715	長池ニシタンボ遺跡	野々市町長池	弥生
6716	御経塚オッソ遺跡	野々市町御経塚	弥生
6719	矢木マノツノキ遺跡	金沢市矢木	弥生
6720	矢木ジワリ遺跡	金沢市矢木	弥生
5150	御光ヨノキヤマ遺跡	松任市御光	弥生・中世
6707	宮永市遺跡	松任市宮永市	弥生・中世
6708	ハクサンダ遺跡	松任市八田	弥生・中世
1177	横江庄庄家跡	松任市横江	弥生・奈良・平安
1139	三浦遺跡	松任市三浦	古墳
1147	長竹遺跡	松任市長竹	古墳
1160	小川新遺跡	松任市小川	古墳
1183	中相川古墳群	松任市相川	古墳

番号	名称	所在地	時代
1186	御手洗川遺跡	松任市相川	古墳
1187	相川新A遺跡	松任市相川新	古墳
1188	相川新B遺跡	松任市相川新	古墳
1191	相川新雁田川遺跡	松任市相川新	古墳
1192	浜竹松遺跡	松任市竹松	古墳
1195	倉部出戸遺跡	松任市倉部	古墳
1197	竹松遺跡	松任市宮永	古墳
1198	宮永遺跡	松任市宮永	古墳
1200	旭小学校遺跡	松任市宮永	古墳
1203	一塚古墳	松任市一塚	古墳
1205	八田中雁田川遺跡	松任市八田中	古墳
1229	御経塚B遺跡	野々市町御経塚	古墳
1231	御経塚C遺跡	野々市町御経塚	古墳
1256	押野西遺跡	野々市町押野	古墳
1258	八日市ヤスマル遺跡	金沢市八日市	古墳
1268	森戸バイパス遺跡	金沢市森戸	古墳
1274	下福増遺跡	金沢市下福増	古墳
1279	上安原腺橋遺跡	金沢市上安原	古墳
1284	びわ塚古墳	金沢市南塚	古墳
6159	新保東遺跡	金沢市新保本	古墳
6160	新保西遺跡	金沢市新保本	古墳
6162	南塚B遺跡	金沢市新保本	古墳
6497	田中ノダ遺跡	松任市田中	古墳
6507	上安原カナワリ遺跡	金沢市上安原	古墳
1260	黒田遺跡	金沢市黒田	古墳・平安
1180	福増東川遺跡	松任市福増	奈良
1181	あさひ荘園遺跡	松任市福増	奈良
1193	浜竹松遺跡	松任市竹松	奈良
6505	中屋ヘシダ遺跡	金沢市中屋	奈良・中世
1140	三浦遺跡	松任市三浦	奈良・平安
1259	八日市B遺跡	金沢市八日市	奈良・平安

番号	名称	所在地	時代
6506	上安原遺跡	金沢市上安原	奈良・平安
6713	御経塚ボンサンマイ遺跡	野々市町御経塚	奈良・平安
1129	北出遺跡	松任市米永	平安
1152	高田遺跡	松任市専福寺	平安
1159	法仏遺跡	松任市法仏	平安
1174	横江B遺跡	松任市横江	平安
1176	ジョウガンジ遺跡	松任市横江	平安
1230	御経塚B遺跡	野々市町御経塚	平安
1155	中村遺跡	松任市村井	平安・中世
6501	滑金アガトウ遺跡	野々市町滑金	平安・中世
6508	松島ナカオサ遺跡	金沢市松島	平安・中世
6700	番出・高松遺跡	松任市宮保	平安・中世
1130	北出遺跡	松任市米永	中世
1141	若林長門館跡	松任市倉光	中世
1142	倉光館跡	松任市倉光	中世
1144	西方寺跡	松任市幸明	中世
1148	長竹遺跡	松任市長竹	中世
1149	松の木遺跡	松任市楯爪	中世
1153	専福寺跡	松任市専福寺	中世
1154	村井備中守館跡	松任市村井	中世
1156	光明寺跡	松任市宮保	中世
1157	赤松次郎宮保本陣跡	松任市宮保	中世
1161	小川白山神社遺跡	松任市小川	中世
1166	聖興寺跡	松任市御光	中世
1168	出城城跡	松任市成	中世
1171	ゴクラク寺跡	松任市横江	中世
1182	寄上市左エ門館跡	松任市福増	中世
1185	相川館跡	松任市相川	中世
1194	倉部川遺跡	松任市倉部	中世
1196	倉部館跡	松任市倉部	中世
1201	坊の森遺跡	松任市宮永	中世

Tab. 1　宮永市遺跡周辺の遺跡地名表

的に確認された遺跡は少ない。松任市徳光町の聖興寺跡伝承地が、1987年の調査で、中世の遺物や遺構を検出しているので、今後の検討次第では聖興寺跡と推定できることになるかも知れない。

Ⅱ 遺　　構

宮永市遺跡では、遺構密度はあまり高くないが、ＳＸとした竪穴式建物状の遺構や、ＳＤとした溝、ＳＫとした土坑、ＳＰとした柱穴状の穴などを検出した。

ＳＸ01（16区）　一辺が７ｍ前後を計る、方形の竪穴式建物と思われる。内部に多数の小穴を検出しているが、いずれも数センチの深さで、建物の主柱穴になるような穴は見られなかった。壁の深さは、５から10センチ前後で、遺存状態の悪い遺構である。

ＳＸ02（26区）　短辺が５ｍ前後の長方形の竪穴式建物であった可能性が強い。内部には、柱穴を殆ど検出しておらず、壁の高さも５㎝前後と極く浅い遺構である。

ＳＫ01（１区）　140㎝＊100㎝で、深さ20㎝の土坑。覆土は暗灰褐色で、土器を多く包含していた。

ＳＫ02（６区）　一辺１ｍの、隅丸方形の土坑。35㎝の深さで、灰褐色系の粘質土が堆積していた。土坑の覆土上面に、まとまって土器を検出している。

ＳＫ03（９区）　長辺が約100㎝の長方形の土坑。深さは約20㎝で、暗灰色系の砂層が堆積していた。

ＳＫ05（17区）　短辺が40㎝・長辺が60㎝以上の土坑。覆土は、褐色系の粘質土。

ＳＫ06（19区）　短辺が１ｍ前後の土坑。深さは15㎝前後で、淡黄灰色の粘質土が覆土となっている。

ＳＤ01（１区）　幅40㎝・深さ15㎝の溝。覆土は、黒灰色を呈している。

ＳＤ02（１区）　幅70㎝・深さ15㎝前後の溝。西側で、一段深くなっている。覆土は明灰褐色で、礫が多く含まれていた。

ＳＤ03（３区）　調査区が、南北方向から東西方向に直角に曲がる地点で検出した。遺構の肩の部分しか検出していないので、溝になるのか判らないが、ＳＤとして扱った。覆土は暗灰褐色の粘質土で、この層の上面に土器が多く包含されていた。

ＳＤ04（４区）　幅100㎝・深さ40㎝の溝で、暗灰褐色の粘質土で一度埋まった後に、再び幅80㎝・深さ20㎝の溝が掘削され、灰褐色粘質土が堆積している。

ＳＤ05（４区）　幅100㎝・深さ25㎝の溝で、黄褐色の粘質土を中心に堆積している。

ＳＤ06（６区）　ＳＫ02から延びる幅40㎝・深さ10㎝の溝で、暗灰褐色の土が入っていた。覆土の上面から、比較的多量の土器を検出している。

ＳＤ09（10区）　幅60㎝・深さ約10㎝の溝で、暗灰色の砂質土が覆土となっている。礫や土器を検出している。

ＳＤ10（12区）　幅130㎝・深さ約30㎝を計る溝。暗褐色の覆土を持っている。土器は、あまり

検出していない。

ＳＤ11（13区）　幅160cm・深さ約20cmの、幅広の溝。覆土は、灰褐色系の粘質土。

ＳＤ13（14区）　幅90cm・深さ約30cmの溝。覆土は、灰褐色系の粘質土。

ＳＤ14（17区）　幅60cm・深さ約５cmの浅い溝。覆土は、褐色系の粘質土。

ＳＤ15（18区）　幅約60cm・深さ約20cmの浅い南北方向に走る溝で、覆土は黄褐色の粘質土である。

ＳＤ16（19区）　幅約60cm・深さ約15cmの浅い溝で、覆土は灰褐色の粘質土である。

ＳＤ17（16区）　幅約30cm・深さ約15cmの浅い溝で、覆土は灰褐色の粘質土である。

ＳＤ18（21区）　幅約40cm・深さ約20cmの浅い溝で、覆土は暗灰褐色の粘質土である。

ＳＤ19（27区）　幅約30cm・深さ約15cmの浅い溝で、覆土は灰褐色の粘質土である。

ＳＤ20（30区）　30区を南北に走る幅約60cm・深さ約15cmの浅い溝。覆土は黄灰褐色の粘質土である。

その他　30区の北東のコーナーで、かなりしっかりした遺構の掘形を検出した。ほとんどが、調査区の外に出ているため、内容は良く判らないが、土器をかなり包含している。

Ⅲ　遺　　物

遺物の詳細については、観察表に記した。検出した土器のうち、ほとんどが弥生時代後期後半の標識資料としている松任市法仏遺跡出土資料に併行するものである。また、須恵器の破片が若干と、陶器片や瀬戸美濃産と思われる天目椀が若干出土している。

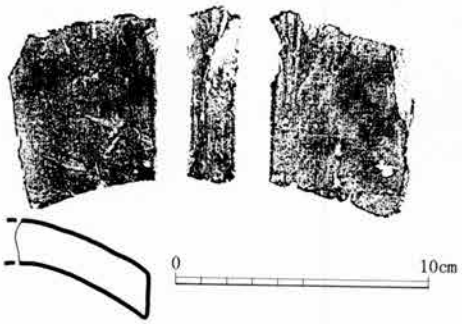


Fig. 3　瓦　拓　本　（S＝1/3）

Fig. 20は桟瓦の破片で、焼成は堅致で灰色を呈する。どちらかと言うと、須恵質に印象が近い。表面は縦ナデで調整を施し、裏面は幅広の板状工具で横ナデ（削り状）を施している。側縁部は、やや暗い色調を示しており、重焼の痕跡と思われる。厚さは1.6cmである。

桟瓦は、江戸時代中期に考案されたと言われているが、北陸においては紀年銘資料による限り、寛政７年まで遡り、実際にはそれ以前から普及しだしたと推定される。ただし、その桟瓦は、越前焼の中から生み出された可能性の高い「赤瓦」と呼ばれる文字通り赤い瓦である。燻し焼き瓦では、今のところ桟瓦になる時期が確認されていない。むしろ、桟瓦の出現とともに燻し焼瓦が衰退した可能性が高い。今回出土した瓦は小片であり、赤瓦の釉薬の塗り忘れか燻し損ないか、あるいは全く別の系統の瓦か特定できない。いずれにせよ、この瓦は桟瓦であると言う点から18世紀後半を遡る事はなく、明治年間には赤瓦と黒瓦（黒い釉薬を厚く塗る瓦で、現在に直接つながる。）に限られると考えられることから、明治以降に下る可能性も低いと推定される。中・近

世以降の瓦については研究が遅れており、今後はこうした資料の蓄積と共に現在まだ屋根に葺かれている瓦の調査も行っていかなければならない。
（註　福井県立博物館の久保智康氏から御教示頂いた。福井県松岡町・柴神社に寛政７年の紀年銘瓦があり、それに伴う瓦が桟瓦である。また、若狭・敦賀を除く越前では桟瓦は全て赤瓦で燻し焼き瓦は本瓦葺きに限られると言う。加賀・能登でも今のところ燻し焼の桟瓦は確認しておらず、同じ状況である。）〔瓦については、木立雅朗が執筆した〕

Ⅳ　ま　と　め

今回は排水路に限定した幅２ｍの調査のため、弥生時代後期後半に営まれた集落の一部を発掘したにすぎず、遺跡の全体を把握できたわけではない。しかし、宮永市遺跡周辺には冒頭にも述べたように弥生時代後期の遺跡が密集しており、このような遺跡集団は周辺では松任市法仏遺跡周辺・野々市町御経塚遺跡周辺など、いくつかのブロックを形成しながら手取扇状地に分布している見通しを得ることが出来た。今後は、これらの遺跡集団の検討を通して、弥生時代後期の地域構造を検討していきたい。

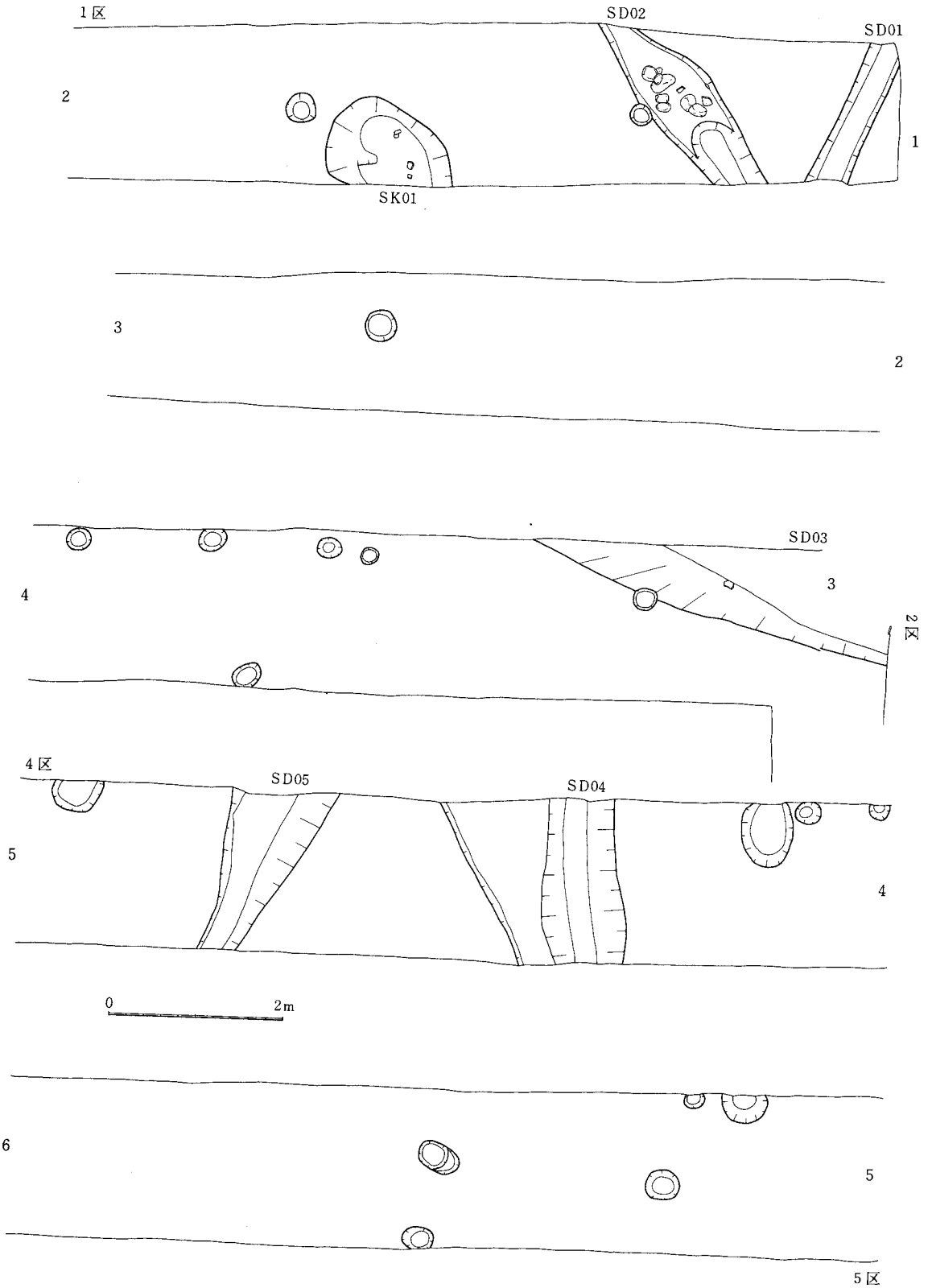


Fig. 4　遺 構 実 測 図

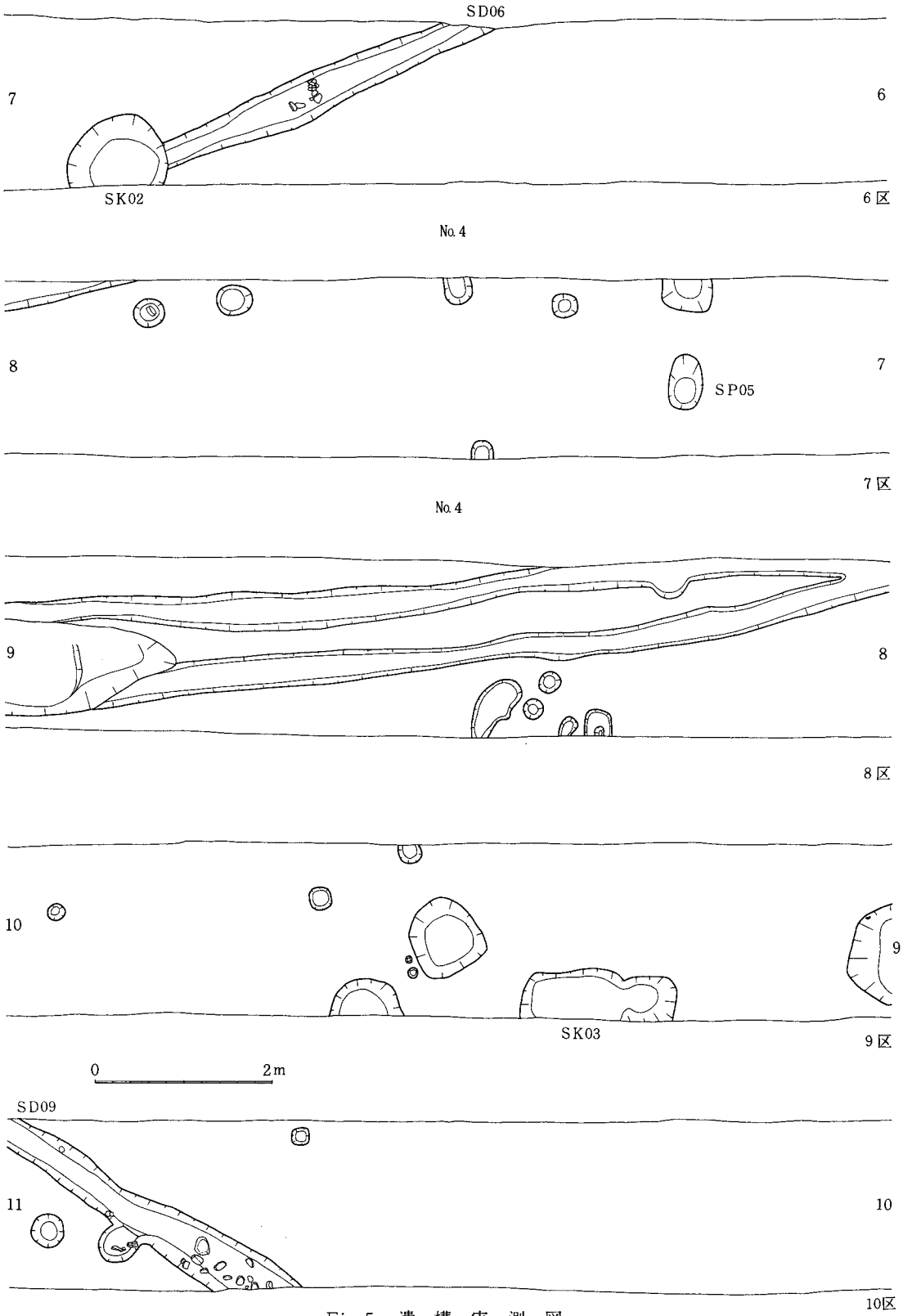

SD06
7
6
SK02
6区
No.4
8
7
SP05
7区
No.4
9
8
8区
10
9
SK03
9区
0
2m
SD09
11
10
10区

Fig.5 遺 構 実 測 図

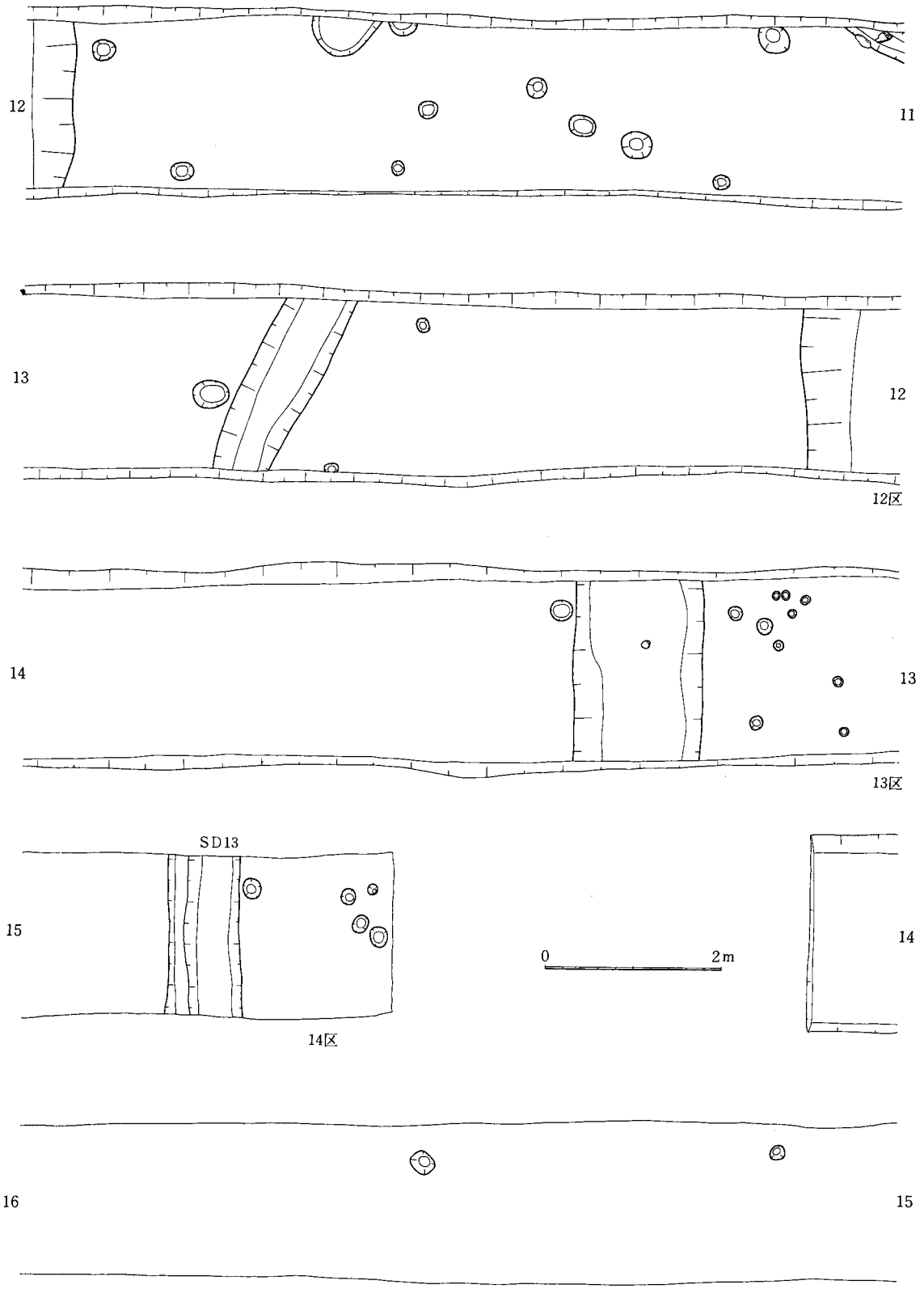


Fig. 6　遺 構 実 測 図

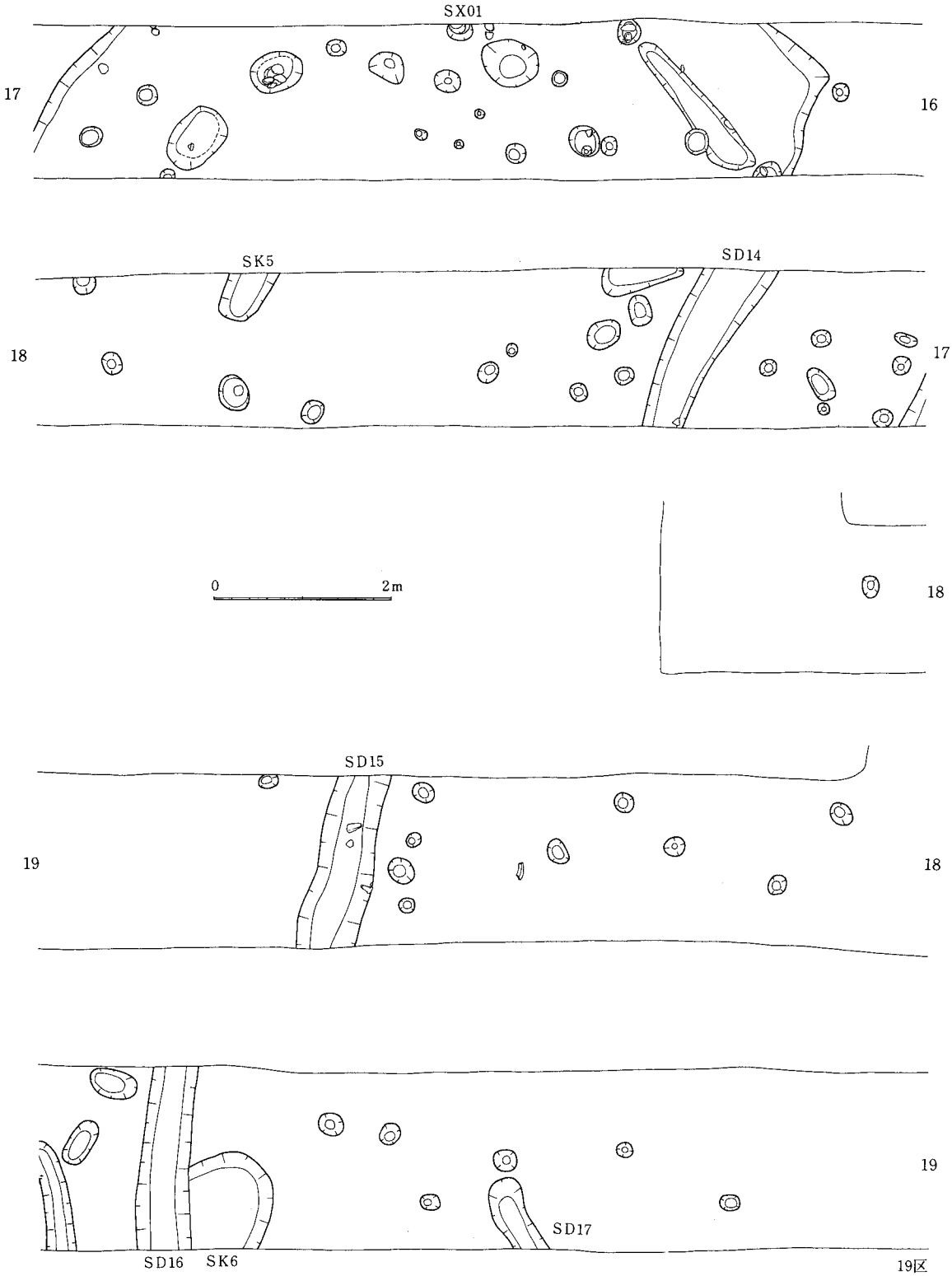


Fig. 7 遺 構 実 測 図

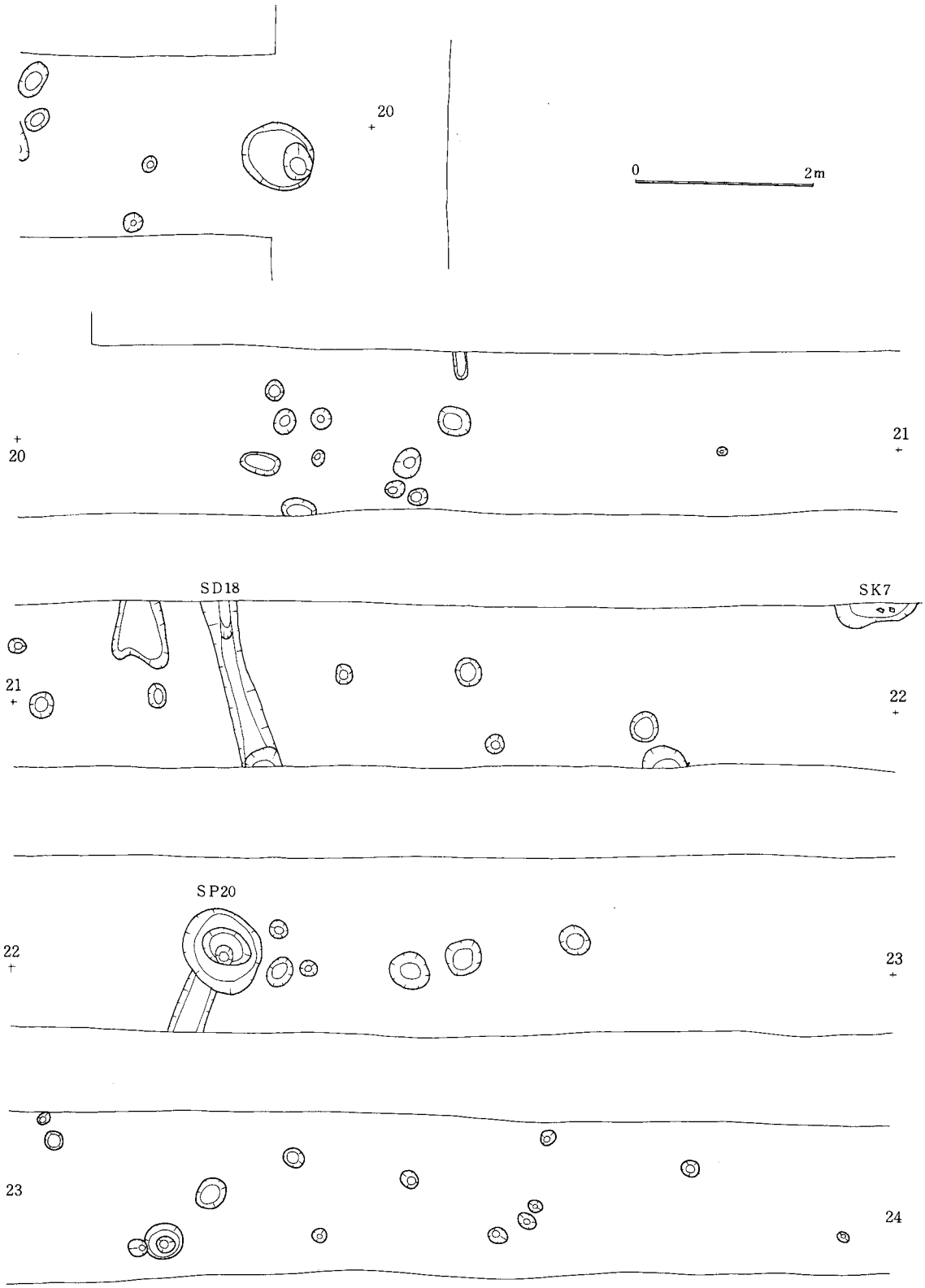


Fig. 8 遺 構 実 測 図

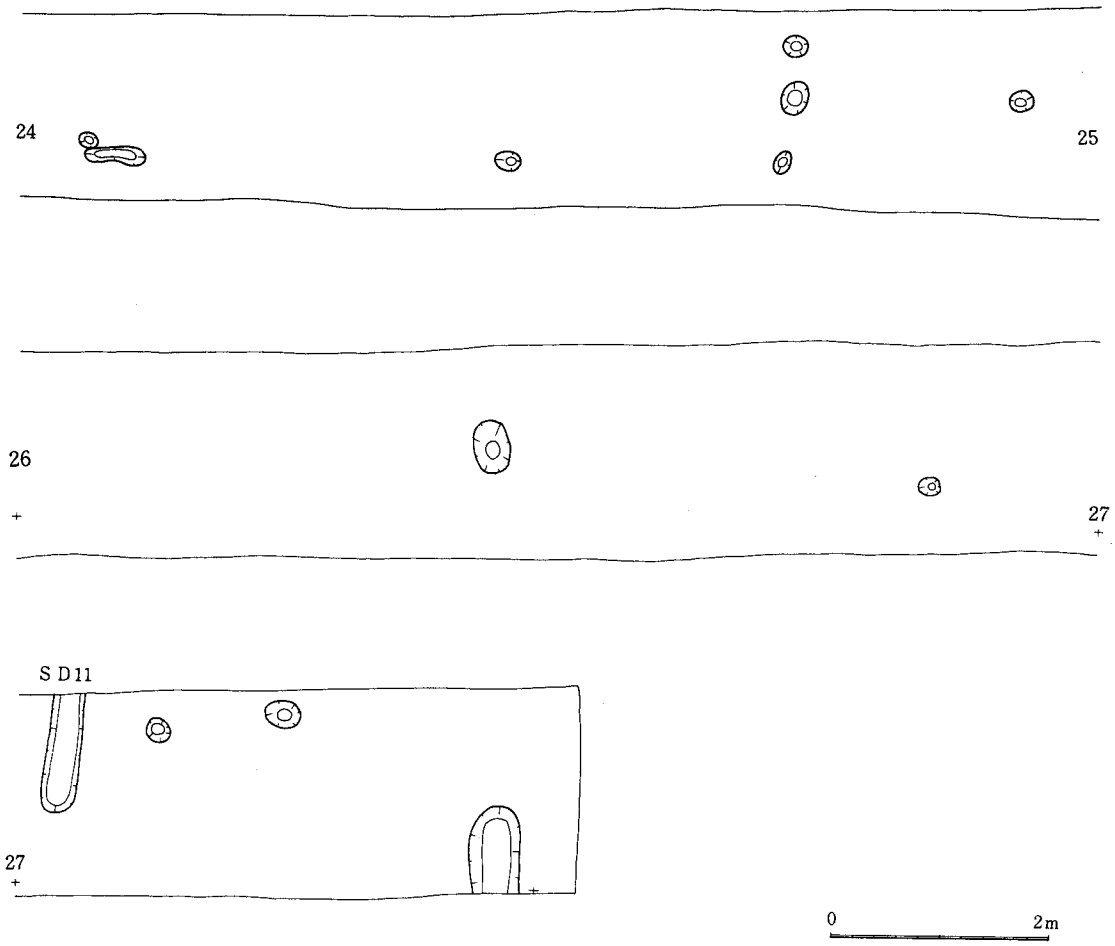


Fig. 9 遺 構 実 測 図

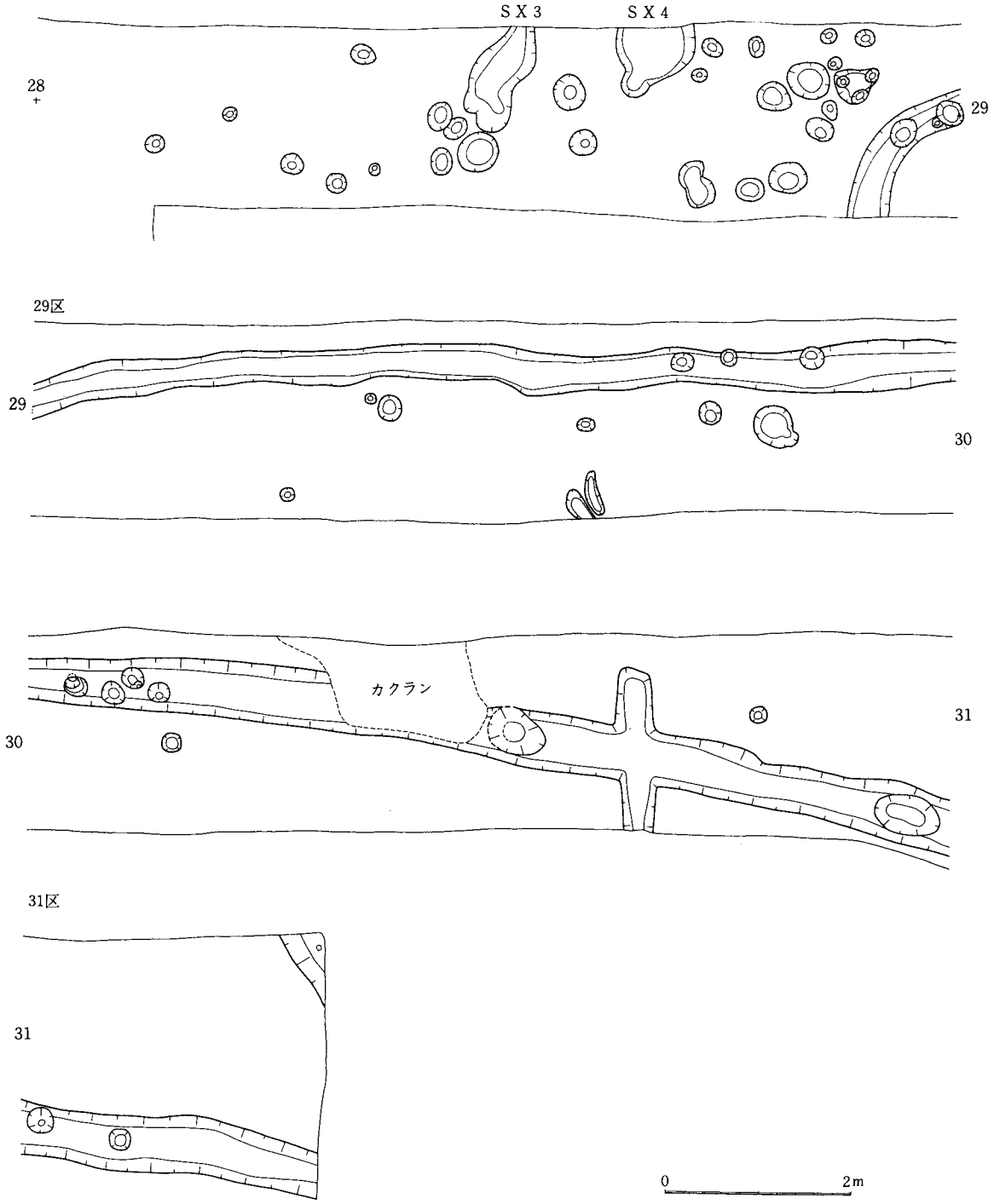
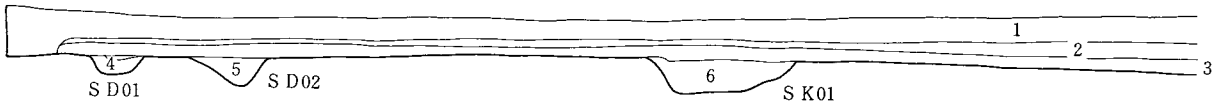
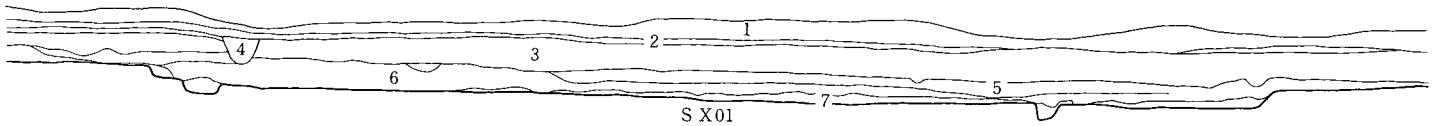


Fig.10 遺 構 実 測 図



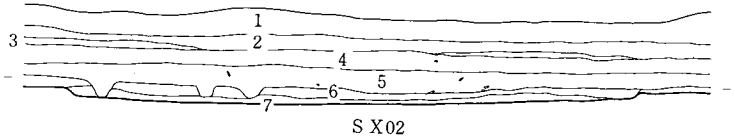
1：耕作土
2：黄褐色粘質土
3：灰褐色粘質土
4：黒灰褐色土
5：明灰褐色土
6：暗灰色土

16～17区　西側壁セクション



1：耕作土
2：黄褐色粘質土
3：灰褐色粘質土
4：暗灰褐色粘質土
5：明黄灰色粘質土
6：淡灰褐色粘質土
7：淡黄灰色粘砂質土

26区　西側壁セクション



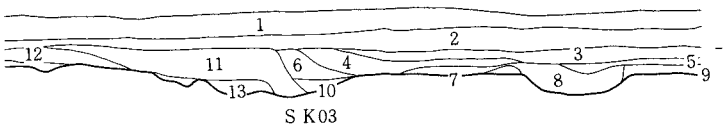
1：耕作土
2：灰褐色粘質土
3：黄褐色粘質土
4：黄灰褐色粘質土
5：暗灰褐色粘質土（土器片多い）
6：灰褐色粘砂質土
7：黄灰褐色粘砂質土

0　2m

Fig.11　土層実測図

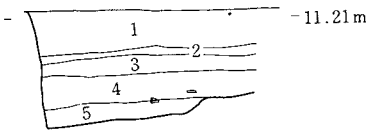
9区

S K03



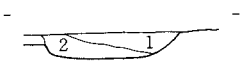
1：耕作土
2：黄褐色粘質土
3：灰褐色粗砂層
4：暗黄灰褐色砂層
5：暗褐色粘土
6：小レキ層
7：5層と同一
8：暗灰褐色粘土
9：灰褐色粘質土
10：暗灰褐色砂層
11：暗灰色砂層
12：小レキ層
13：暗灰褐色砂層

S D03



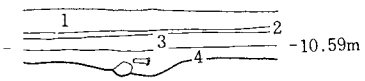
1：耕作土
2：黄褐色粘質土
3：黄灰褐色粘質土
4：暗褐色粘質土
5：暗灰褐色粘質土

S K02



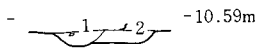
1：暗灰色粘質土
（上面に土器が多い）
2：灰褐色粘質土

S D09



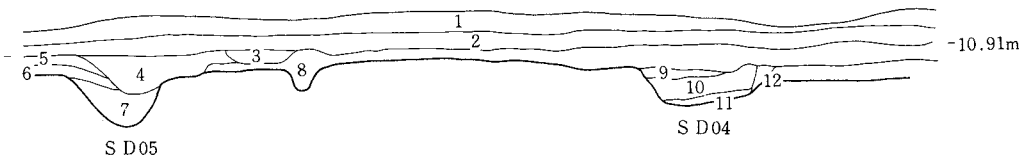
1：耕作土
2：灰色粘土
3：暗灰褐色粘土
4：暗灰色粘土（粗砂を含む）

S D09　S P08



1：暗灰色粘質土（S D 09）
2：灰褐色粘質土（S P08）
〔覆土上面にカメの口縁〕

4区　西側壁セクション

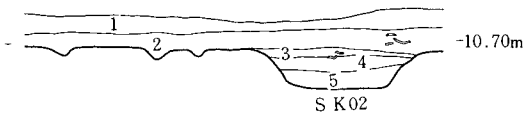


1：耕作土
2：黄褐色粘質土
3：灰褐色粘質土
4：暗灰褐色粘質土
5：黄灰褐色粘質土
6：暗黄灰褐色粘質土
7：暗灰褐色粘質土
8：暗黄褐色粘質土
9：黄灰褐色粘質土
10：黄褐色粘質土
11：暗褐色砂層
12：暗黄灰褐色粘砂層

0　2m

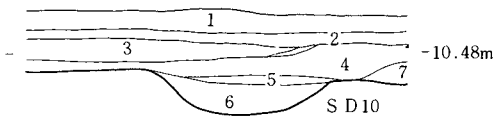
Fig.12　土　層　実　測　図

6区　西側壁セクション



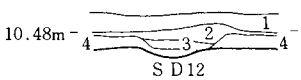
1：耕作土
2：黄褐色粘土
3：暗黄褐色粘土
4：黄灰褐色粘土
5：暗灰褐色粘土

12区　西側壁セクション



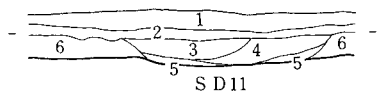
1：耕作土
2：黄褐色粘土
3：黄灰色粘土
4：暗黄灰色粘土
5：暗灰色粘土
6：暗褐色粘土
7：明黄灰色粘土

12区　西側壁セクション



1：耕作土
2：黄灰褐色粘土
3：暗灰褐色土
4：黄褐色粘砂

13区　西側壁セクション

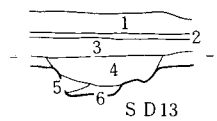


1：耕作土
2：黄灰褐色粘土
3：灰褐色粘土
4：暗灰褐色粘土
5：黄灰色粘砂
6：黄灰褐色粘砂

14～15区　西側壁セクション

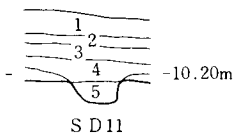
1：耕作土
2：黄灰色粘土
3：黄褐色粘土
4：暗灰褐色粘土
5：黄灰色粘砂

14区　西側壁セクション



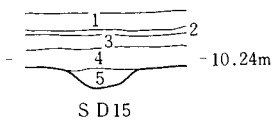
1：耕作土
2：黄褐色粘土
3：灰褐色粘土
4：暗黄灰褐色粘土
5：暗灰褐色粘土
6：灰色粘砂

19区　北側壁セクション



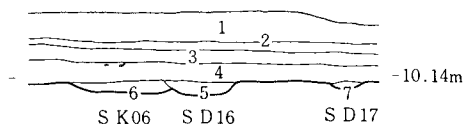
1：耕作土
2：灰褐色粘土
3：黄灰褐色粘土
4：暗黄灰褐色粘土
5：黄灰色粘砂

18区　北側壁セクション



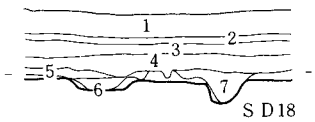
1：耕作土
2：灰褐色粘土
3：黄灰褐色粘土
4：暗黄灰色粘土
5：黄褐色粘土

19区　北側壁セクション



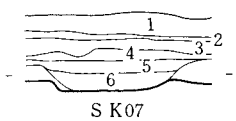
1：耕作土
2：灰褐色粘土
3：黄灰褐色粘土
4：暗黄灰褐色粘土
5：灰褐色粘砂
6：淡黄灰色粘砂
7：淡黄灰色粘砂

21区　西側壁セクション



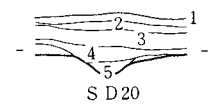
1：耕作土
2：灰褐色粘土
3：黄灰色粘土
4：暗黄灰色粘土
5：灰褐色粘土
6・7：暗灰褐色粘土

21～22区西側壁セクション



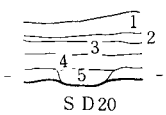
1：耕作土
2：灰褐色粘土
3：黄灰褐色粘土
4：明黄灰褐色粘土
5：黄灰色粘土
6：黄灰色粘砂
（炭を含む）

31区　南側壁セクション



1：耕作土
2：黄灰色粘土
3：黄褐色粘土
4：暗黄灰色粘土
（炭を含む）
5：黄灰褐色粘砂

28区　西側壁セクション



1：耕作土
2：黄灰色粘土
3：黄褐色粘土
4：暗黄灰色粘土
5：黄灰褐色粘砂

0　2m

Fig.13　土　層　実　測　図

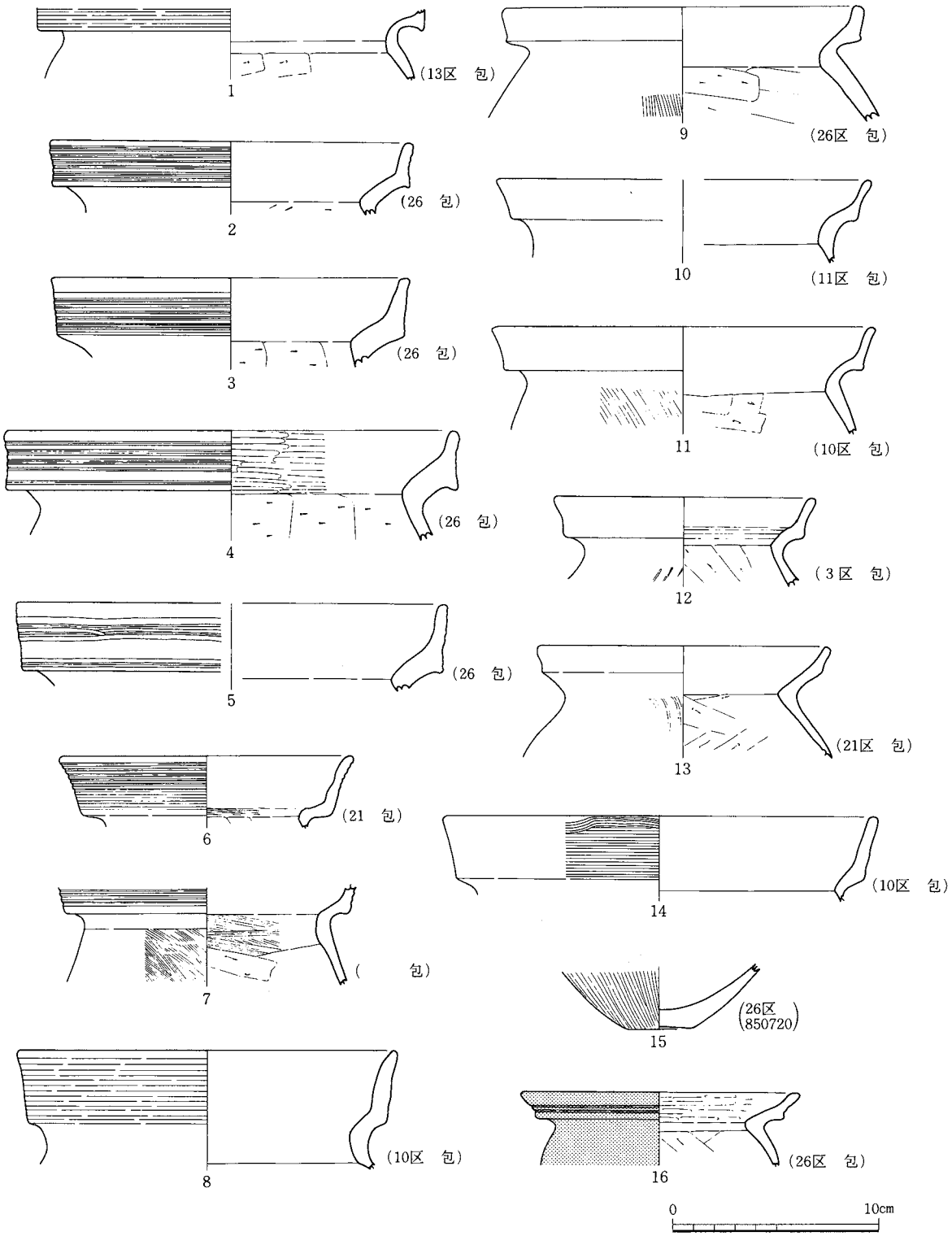


Fig.14　包含層出土土器実測図

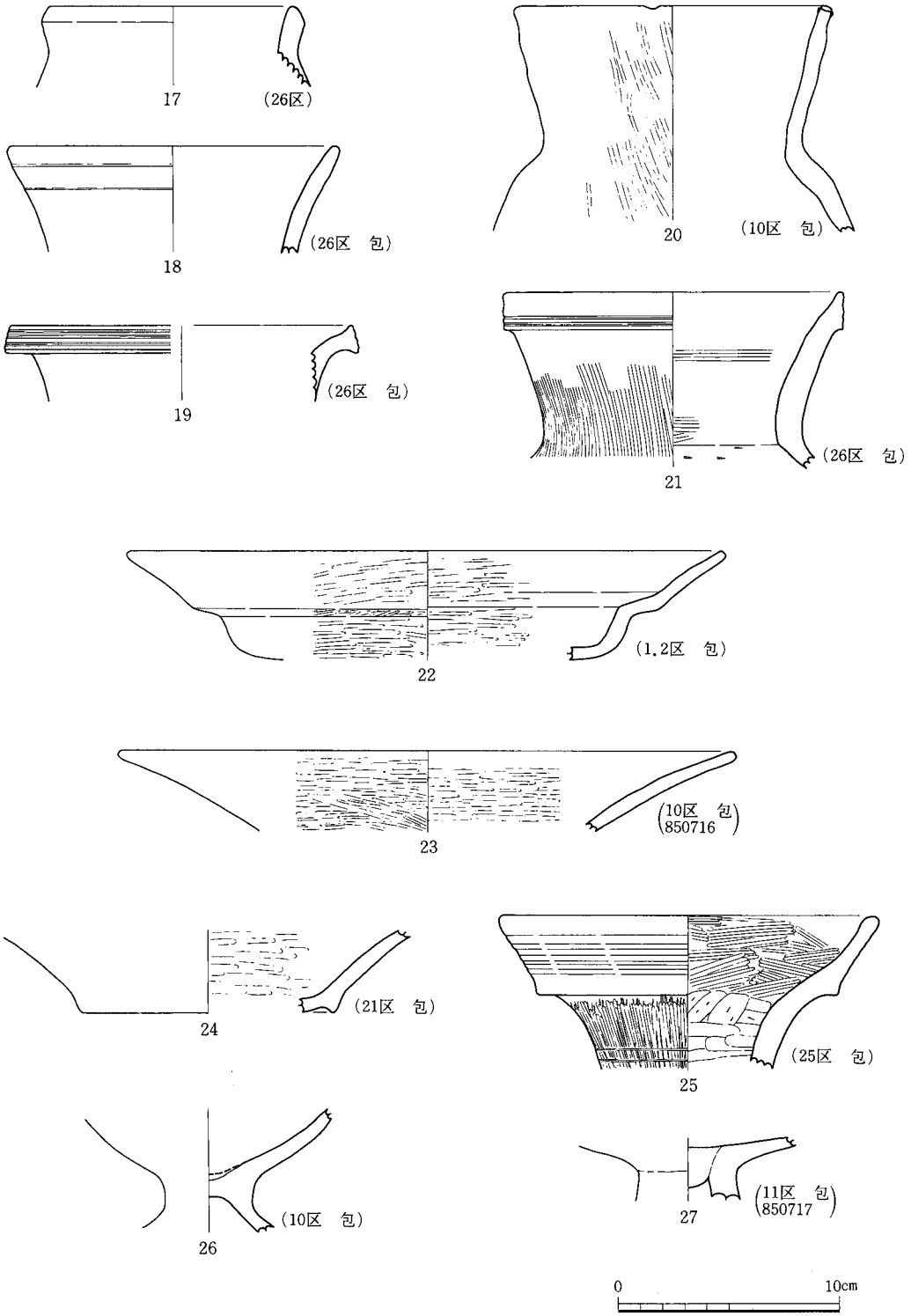


Fig.15 包含層出土土器実測図

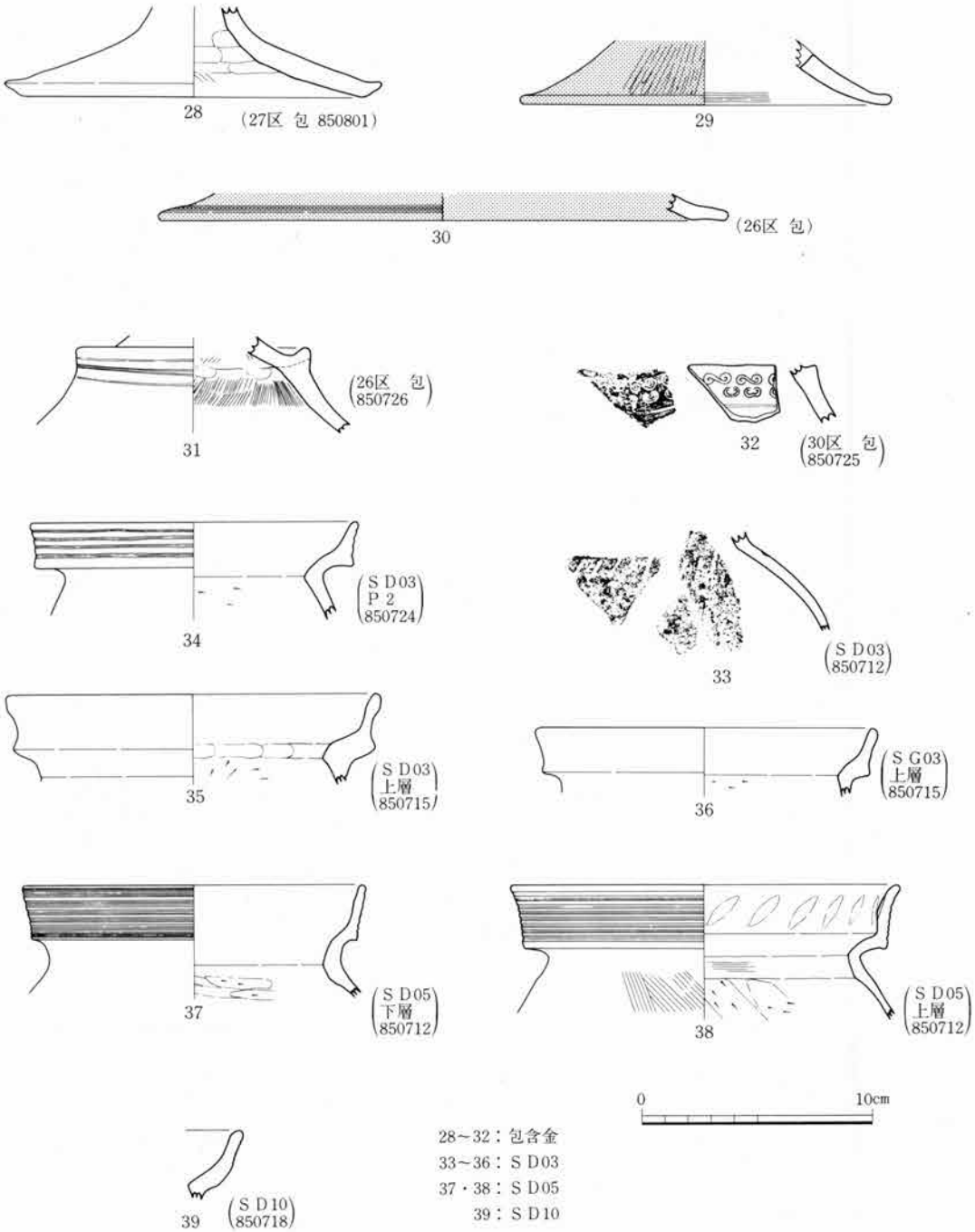


Fig.16　包含層・S D03・S D05出土土器実測図

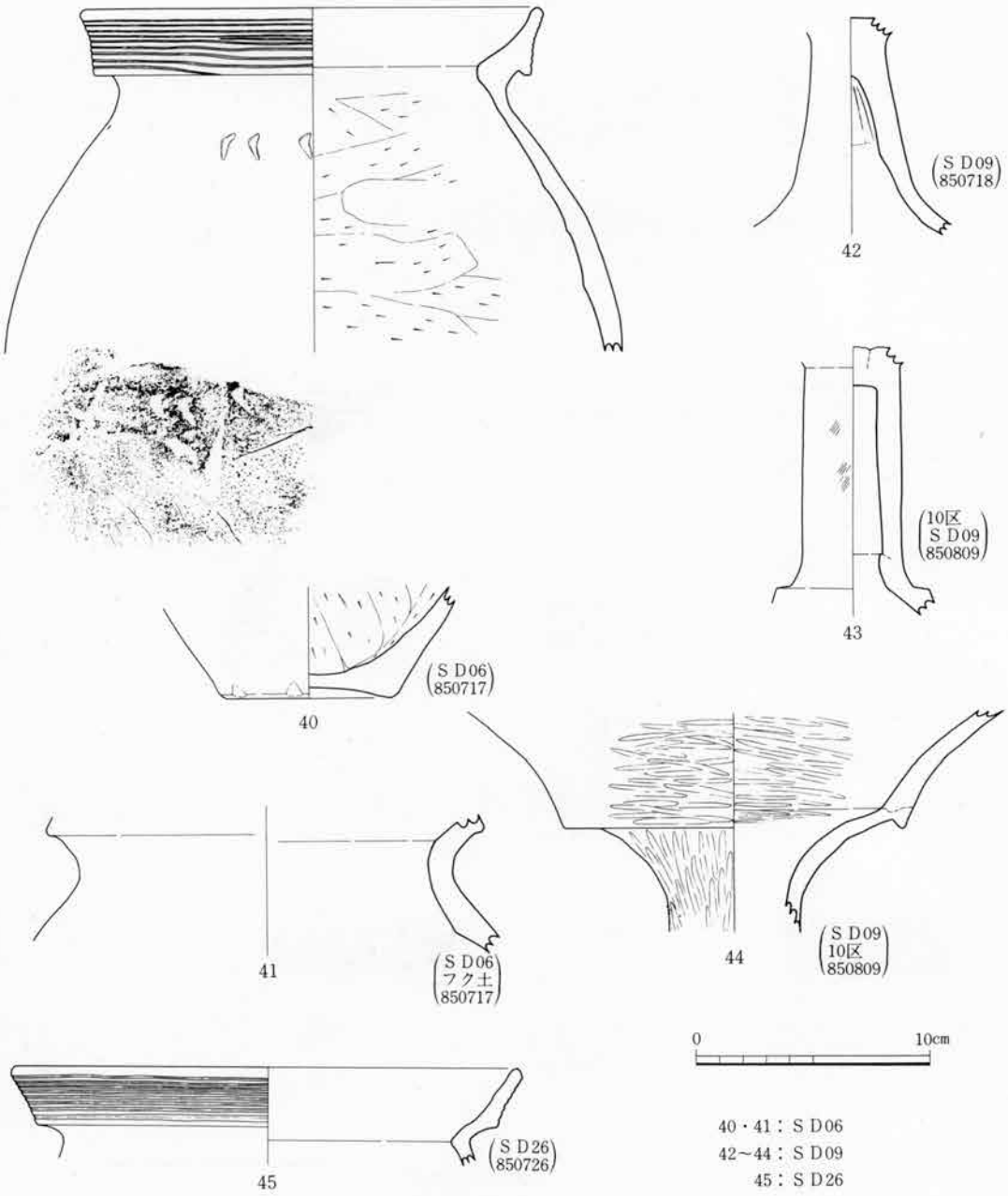


Fig.17　S D06・S D09・S D26出土土器実測図

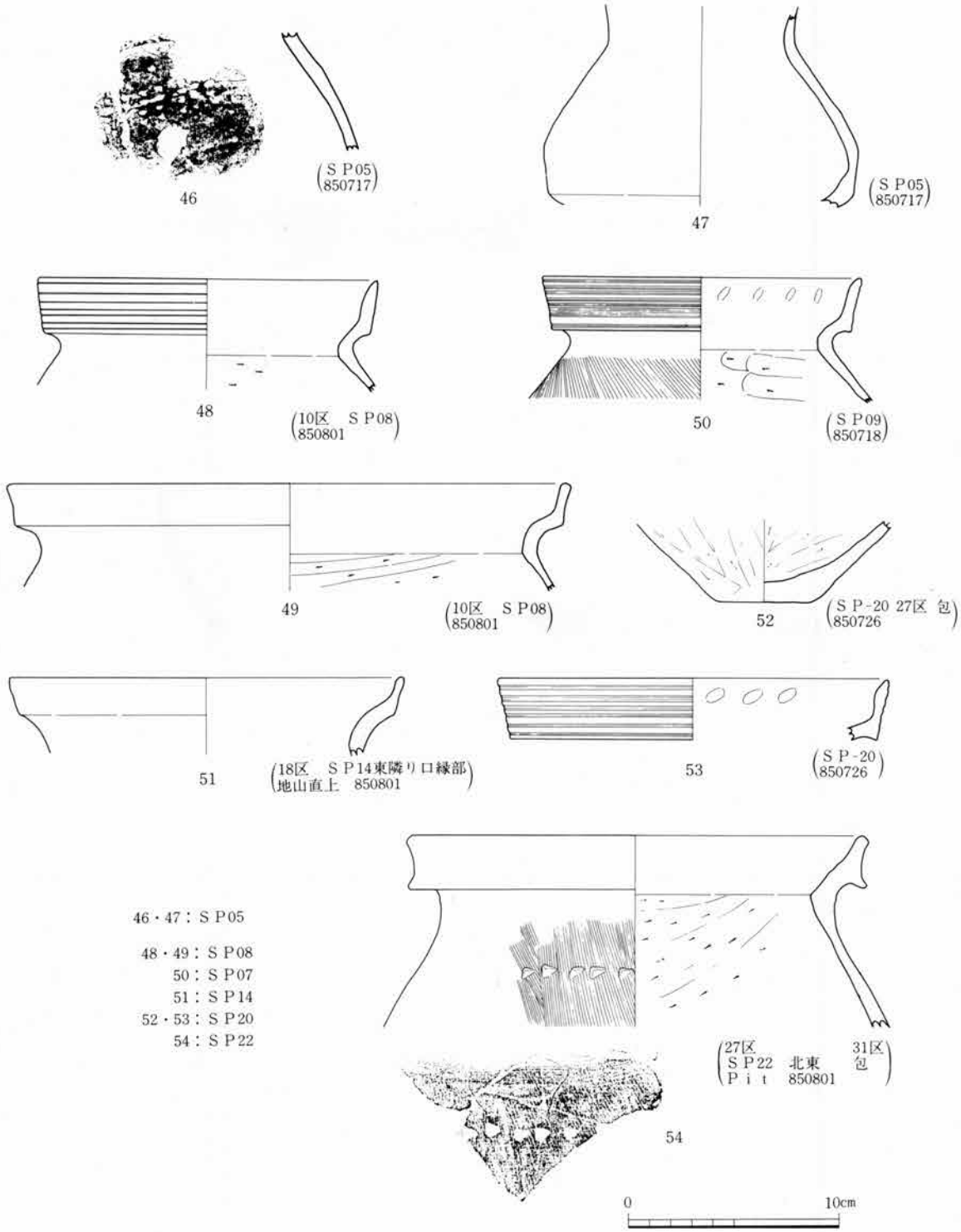
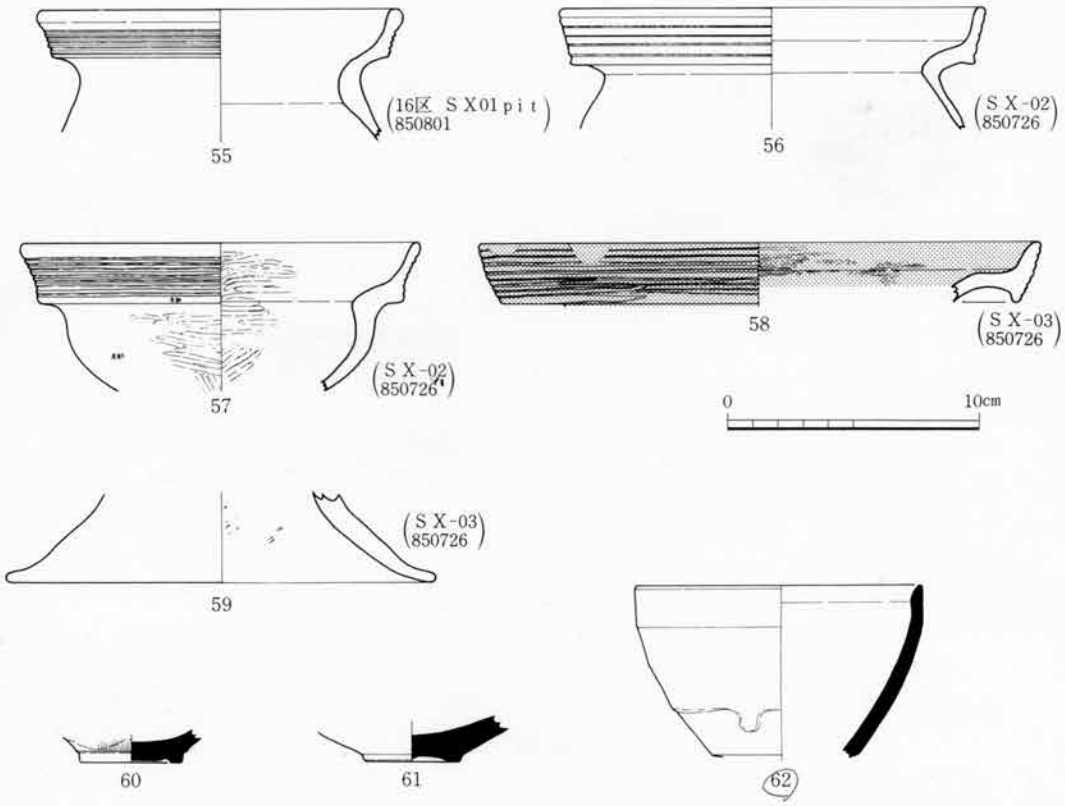


Fig.18　S P05・S P08・S P09・S P14・S P20・S P22出土土器実測図



55：SX01
56～59：SX02
60：SK05
61・62：

Fig.19　SX01・SX02・SK05・包含層出土土器実測図

1区
2区
3区
4区
5区
6区
7区
8区
9区
10区
11区
12区
13区
14区
15区
16区
17区
18区
19区
20区
21区
22区
23区
24区
25区
26区
27区
28区
29区
30区
SP01
SP02
SP03
SK01
SP04
SP05
SP06
SK02
SP05
SP06
SP07
SK03
SP08
SP09
SP11
SP12
SP13
SP14
SX02
SP15
SP16
SP17
SK06
SX03
SP23
SP24
SX04
SX05
SP26
SP17
SP20
SP18
SP19
SK07
SP20
SP19
SP22
SP21
SX01
0
5
10
15m

宮永市遺跡出土土器観察表

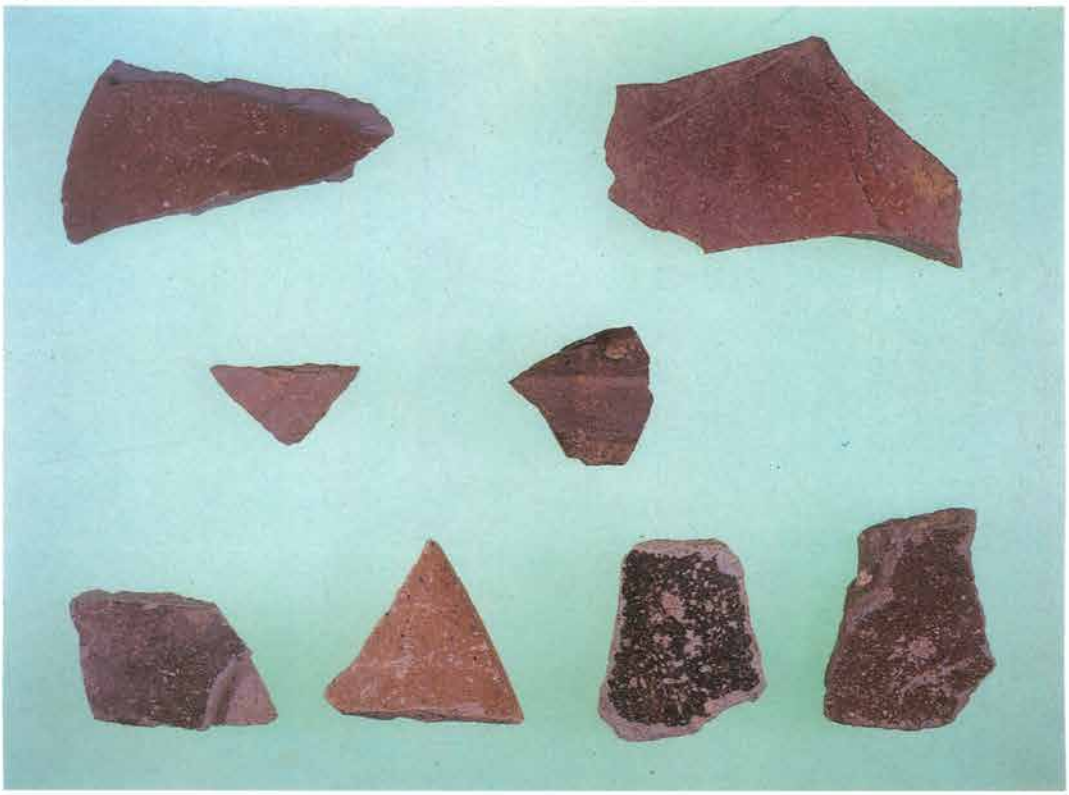
Fig.	No.	種別	器種	調査区	遺構	号	口径	底径	体高	外面調整	内面調整	胎土	備考
14	1	弥生	甕	13						擬凹線	体部：削り	微砂粒・赤色酸化粒含む	包含層
14	2	弥生	甕	26			17.3			擬凹線	口縁：ナデ・体部：削り	微砂粒含む	包含層
14	3	弥生	甕	26			17.4			擬凹線	口縁：ナデ・体部：削り	微砂粒・赤色酸化粒含む	包含層
14	4	弥生	甕	26			21.8			口縁：擬凹線・体部：ナデ	口縁：磨き・体部：削り	微砂粒含む	包含層
14	5	弥生	甕	26						擬凹線	?	微砂粒・赤色酸化粒含む	包含層
14	6	弥生	甕	21			14.2			擬凹線	口縁：ナデ・体部：削り	微砂粒・赤色酸化粒含む	包含層
14	7	弥生	甕							擬凹線・体部：ハケ	口縁：ナデ・体部：削り	微砂粒・赤色酸化粒含む	包含層
14	8	弥生	甕	10			18.2			口縁：擬凹線	ナデ	微砂粒・赤色酸化粒・海綿含む	包含層
14	9	弥生	甕	26			17.2			口縁：ナデ・体部：ハケ／ナデ	口縁：ナデ・体部：削り	微砂粒・赤色酸化粒含む	包含層
14	10	弥生	甕	11						ナデ	ナデ	微砂粒・赤色酸化粒含む	包含層
14	11	弥生	甕	10			18			口縁：ナデ・体部：ハケ	口縁：ナデ・体部：削り	微砂粒多く含む	包含層
14	12	弥生	甕	3			12.5			ナデ	口縁：ナデ・体部：削り	微砂粒・赤色酸化粒含む	体部外面：櫛刺突文
14	13	弥生	甕	21			13.7			ナデ	口縁：ナデ・体部：削り	微砂粒・赤色酸化粒含む	包含層
14	14	弥生	甕	10			21			口縁：擬凹線	ナデ	微砂粒・赤色酸化粒含む	包含層
14	15	弥生	甕	26				3.3		ハケ	ナデ	微砂粒・赤色酸化粒含む	包含層
14	16	弥生	壺	26			13			赤彩	口縁：磨き・体部：削り	微砂粒・赤色酸化粒含む	包含層
15	17	弥生	壺	26			11			?	?	微砂粒・赤色酸化粒含む	包含層
15	18	弥生	壺	26			14.8			ナデ	ナデ	微砂粒含む	包含層
15	19	弥生	壺?	26						口縁：擬凹線・体部：ナデ	ナデ	微砂粒含む	包含層
15	20	弥生	長頸壺	10			13.4			ハケ	?	微砂粒・シャーモット含む	包含層
15	21	弥生	長頸壺	26			15			口縁：ナデ・体部：ハケ	ハケ／ナデ・体部：削り	微砂粒・赤色酸化粒含む	包含層
15	22	弥生	高坏	1			26.5			磨き	磨き	微砂粒・赤色酸化粒含む	包含層
15	23	弥生	高坏	10			27.6			磨き	磨き	微砂粒・赤色酸化粒含む	包含層
15	24	弥生	器台	24						?	磨き	微砂粒含む	包含層
15	25	弥生	器台	25			16.8			口縁：凹線・体部：磨き	口縁：磨き・体部：削り	微砂粒含む	包含層
15	26	弥生	脚付鉢	10						?	磨き	微砂粒・赤色酸化粒含む	包含層
15	27	弥生	高坏	11						ナデ	?	微砂粒・赤色酸化粒含む	包含層
16	28	弥生	高坏	27				14.8		磨き	削り／ナデ	微砂粒含む	包含層
16	29	弥生	高坏	26				16		磨き	ナデ	微砂粒含む	包含層
16	30	弥生	器台	26				24.6		凹線／磨き	磨き	微砂粒含む	包含層
16	31	弥生	器台	26						磨き	ハケ	微砂粒・赤色酸化粒含む	包含層
16	32	弥生	器台	30						赤彩／S字状スタンプ	磨き	微砂粒含む	包含層

Fig.	No.	種別	器種	調査区	遺構	号	口径	底径	体高	外面調整	内面調整	胎土	備考
16	33	弥生	甕		SD	3				体部：ヘラ刺突文	削り	微砂粒含む	
16	34	弥生	甕		SD	3	14			口縁：擬凹線・体部：ナデ	口縁：ナデ・体部：削り	微砂粒含む	
16	35	弥生	甕		SD	3	15.8			ナデ	口縁：ナデ・体部：削り	微砂粒含む	
16	36	弥生	甕		SD	3	14.2			ナデ	口縁：ナデ・体部：削り	微砂粒含む	
16	37	弥生	甕		SD	5	14.6			口縁：擬凹線・体部：ナデ	口縁：ナデ・体部：削り	微砂粒・海綿含む	
16	38	弥生	甕		SD	5	16.4			口縁：擬凹線・体部：ハケ	口縁：ナデ・体部：削り	微砂粒含む	
16	39	弥生	壺		SD	10				擬凹線／赤彩	赤彩	微砂粒・海綿含む	
17	40	弥生	甕	6	SD	6	19	7		ナデ	削り	微砂粒多く含む	体部外面：ヘラ刺突文
17	41	弥生	壺?		SD	6				?	?	微砂粒・シャーモット含む	
17	42	弥生	高坏	10	SD	9				磨き?	ナデ	微砂粒含む	
17	43	弥生	高坏	10	SD	9				ナデ	ナデ	微砂粒・赤色酸化粒含む	
17	44	弥生	器台	10	SD	9				磨き	磨き	微砂粒含む	
17	45	弥生	甕		SD	26	21			口縁：擬凹線・体部：ナデ	口縁：ナデ・体部：削り	微砂粒含む	
18	46	弥生	甕		SP	5				櫛刺突文	?	微砂粒含む	
18	47	弥生	壺		SP	5				?	?	微砂粒含む	
18	48	弥生	甕	10	SP	8	12.3			擬凹線	体部：削り	微砂粒・赤色酸化粒含む	
18	49	弥生	甕	10	SP	8	26.2			ナデ	口縁：ナデ・体部：削り	微砂粒含む	
18	50	弥生	甕		SP	9	15.2			口縁：擬凹線・体部：ハケ	口縁：ナデ・体部：削り	微砂粒含む	
18	51	弥生	甕	18	SP	14	18.8			?	?	微砂粒含む	
18	52	弥生	甕		SP	20		5.3		削り	削り	微砂粒多く含む	
18	53	弥生	甕		SP	20	18.2			擬凹線	指圧痕	微砂粒多く含む	
18	54	弥生	甕	7	SP	22	21.2			口縁：ナデ・体部：ハケ	口縁：ナデ・体部：削り	微砂粒多く含む	体部外面：ヘラ刺突文
19	55	弥生	甕	16	SX	1	14.2			口縁：擬凹線・体部：ナデ	口縁：ナデ・体部：削り	微砂粒・シャーモット含む	
19	56	弥生	甕		SX	2	16.6			口縁：擬凹線・体部：ナデ	口縁：ナデ・体部：削り	微砂粒・シャーモット含む	
19	57	弥生	鉢		SX	2	15.6			口縁：擬凹線・体部：磨き	磨き	微砂粒含む	
19	58	弥生	器台		SX	2	22			凹線・赤彩	磨き・赤彩	微砂粒・赤色酸化粒含む	
19	59	弥生	高坏		SX	3		16.8		ナデ	削り／ナデ	微砂粒・シャーモット含む	
19	60	磁器	碗		SK	5		4			青白色釉	灰白色	
19	61	陶器	碗					3.8			灰緑色釉	灰色須恵質	
19	62	陶器	碗				11.4			鉄釉	鉄釉	灰白色・黒色微粒子	

Tab. 2　宮永市遺跡出土土器観察表

圃場整備後の宮永市遺跡(1985年)

PL. 2



宮永市遺跡出土陶片

宮永市遺跡周辺航空写真（1950年）◎印は宮永市遺跡

PL. 4

富水市周辺航空写真(1970年代後半)

調査区全景（南から）

南側調査区（北から）

1～2区全景（東から）

1～2区全景（西から）

3区から北を望む

1～2区全景（西から）

3区周辺調査風景

3区から北を望む

3区から北を望む

3区から北を望む

PL. 9

6区以北全景

6・7区全景

8区以北全景

8 区 全 景

PL. 12

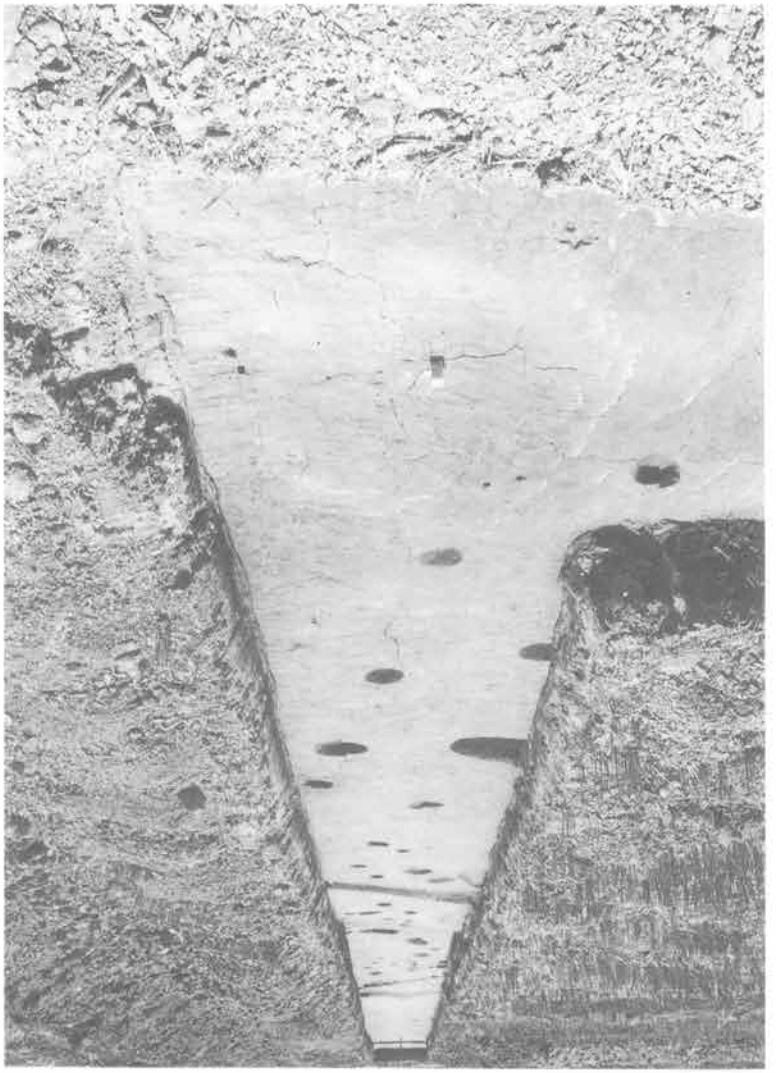
12 区 全 景

12区から南を見る

17区全景（SX01）南から

17・18区全景（南から）

PL. 14



18・19区全景（東から）

18区以南全景

21区周辺（北から）

25区全景（南から）

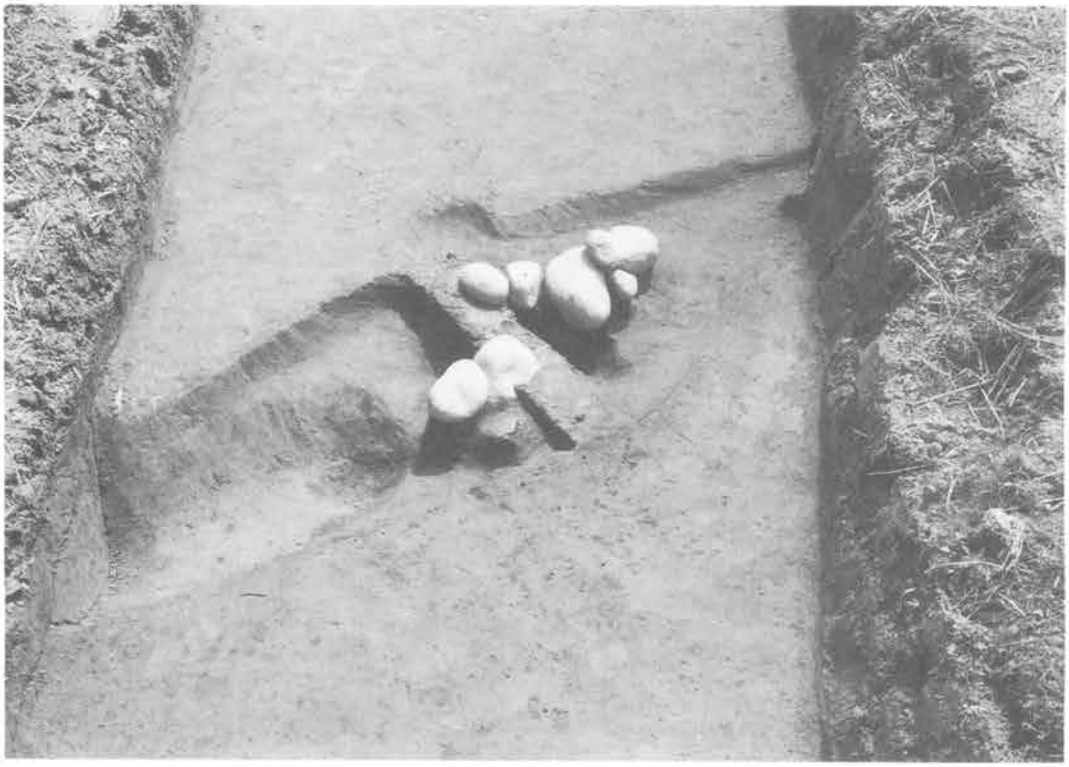
26区周辺（北から）

28区周辺（北から）

SX02周辺（北から）

27区から南を望む

SD01（西から）



SD02（西から）

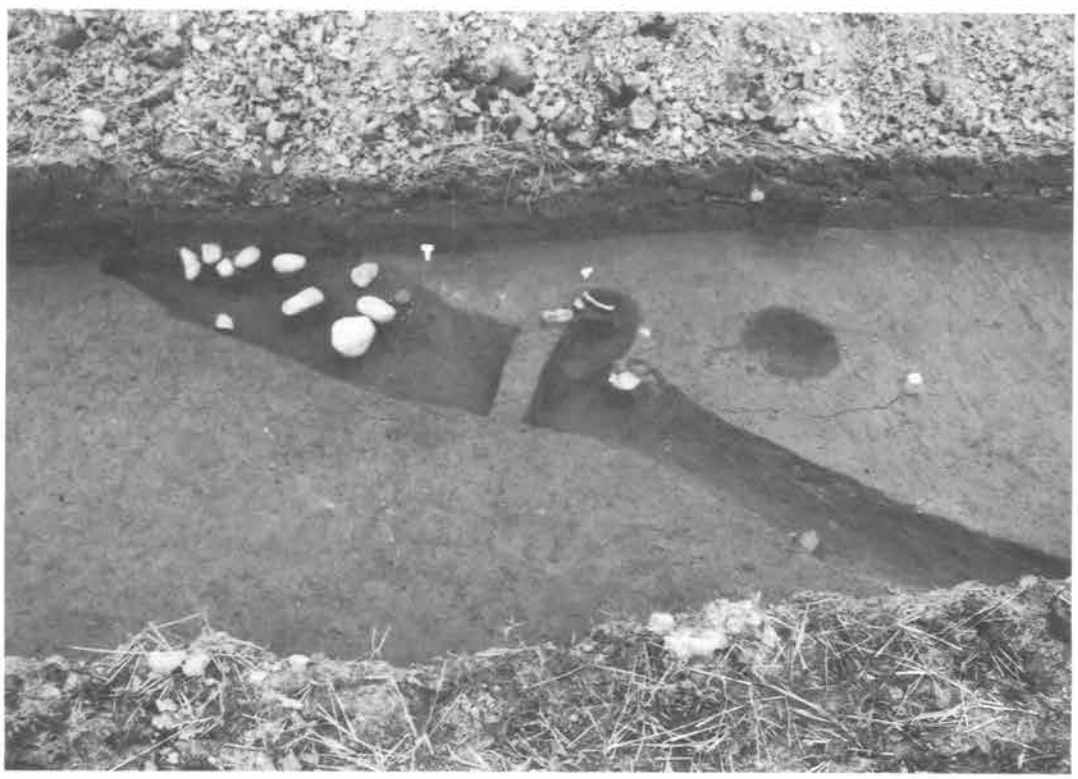
SD03（北から）

SD04（南から）

SD05（東から）

SD06・SK02（東から）

SD09・SP08（南から）



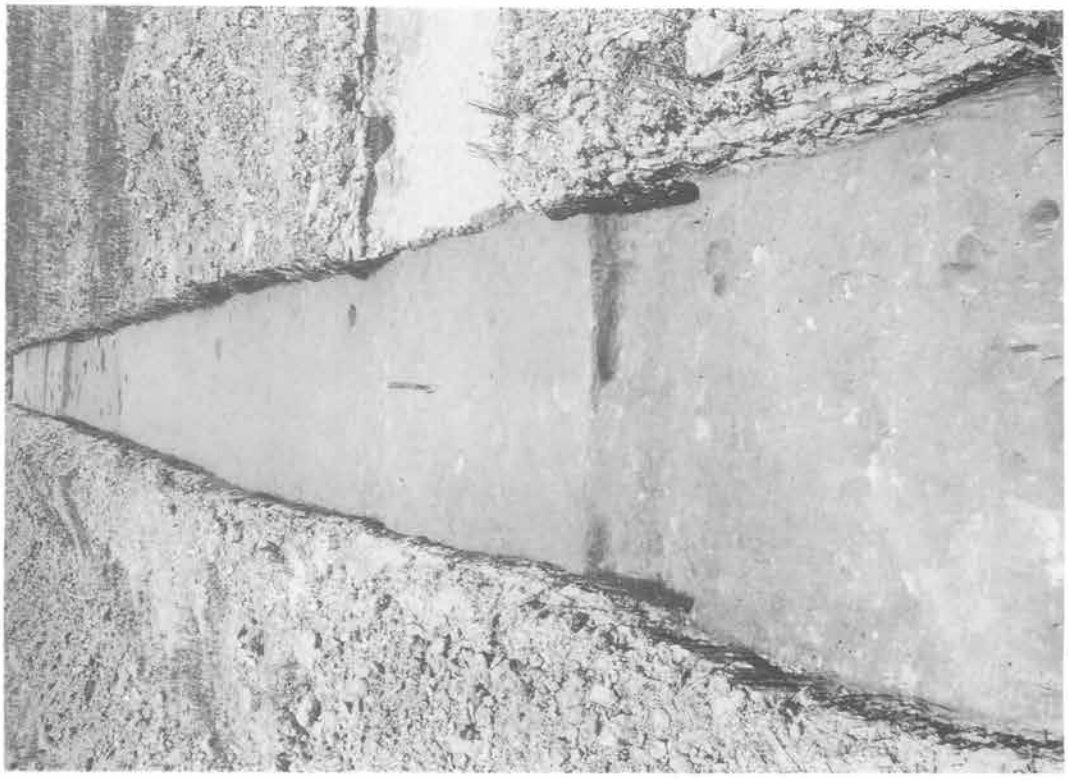
SD09・SP08（東から）

SD11（北から）

SD13

SD15（南から）

SK06・SD16・17（南から）

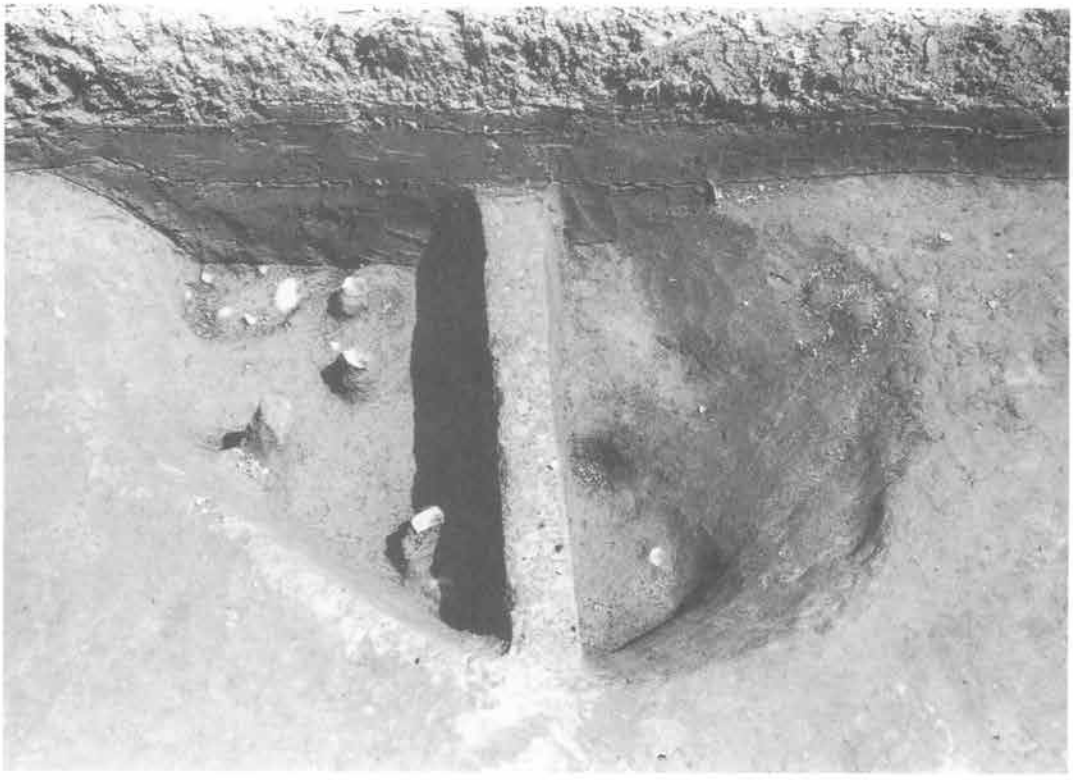


13区・SD11（北から）

SD20（南から）

SD20（北から）

SD20（北から）



SK01（南から）

SK02（東から）

SX01（南から）

SX01（北から）

SX01（北から）

SK01（南から）

SX01（北から）

SX01周辺（南から）

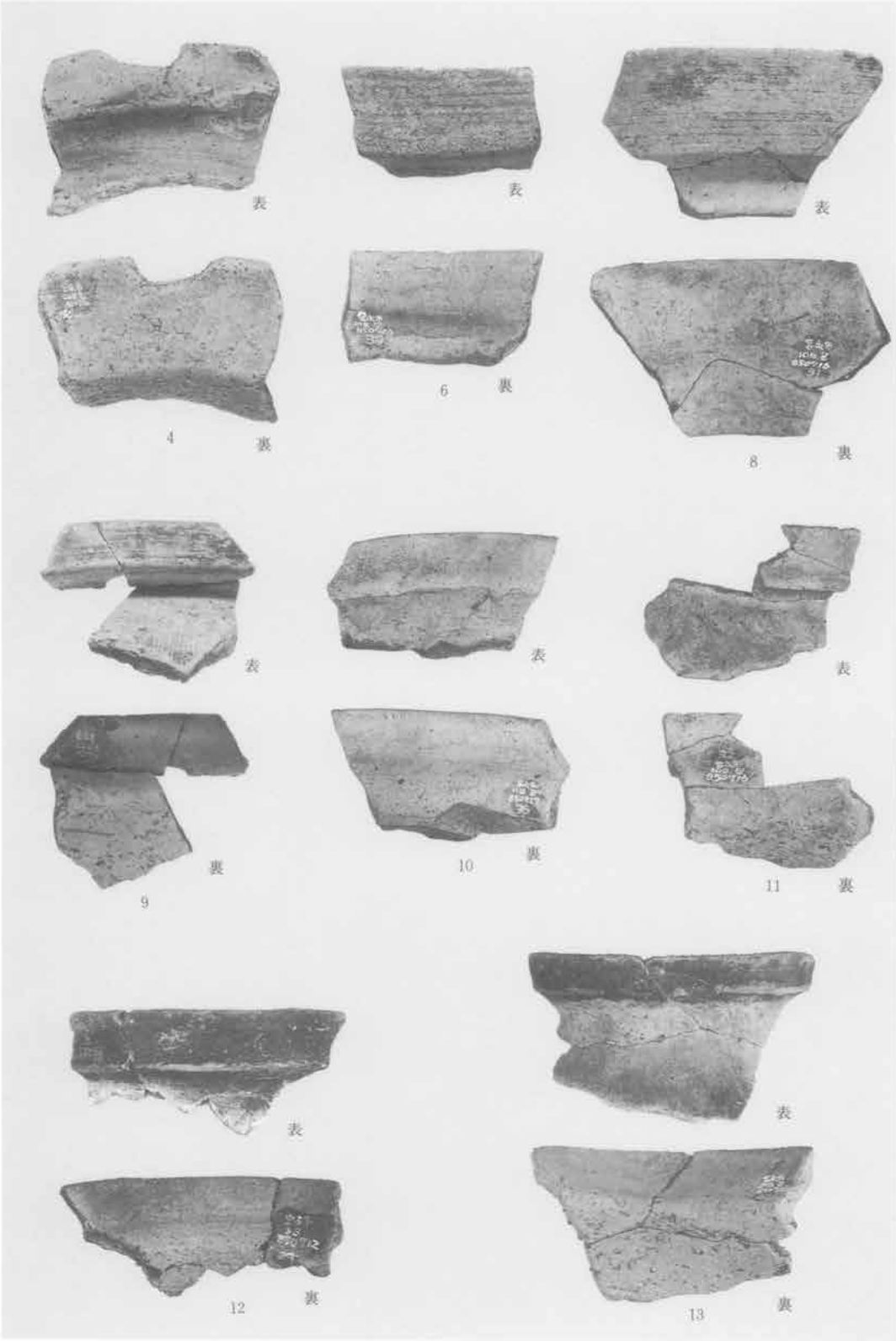


表
表
表
4
裏
6
裏
8
裏
表
表
表
9
裏
10
裏
11
裏
表
表
12
裏
13
裏

表

表

裏

14

16 裏

22

表

21

裏

表

25

裏

表

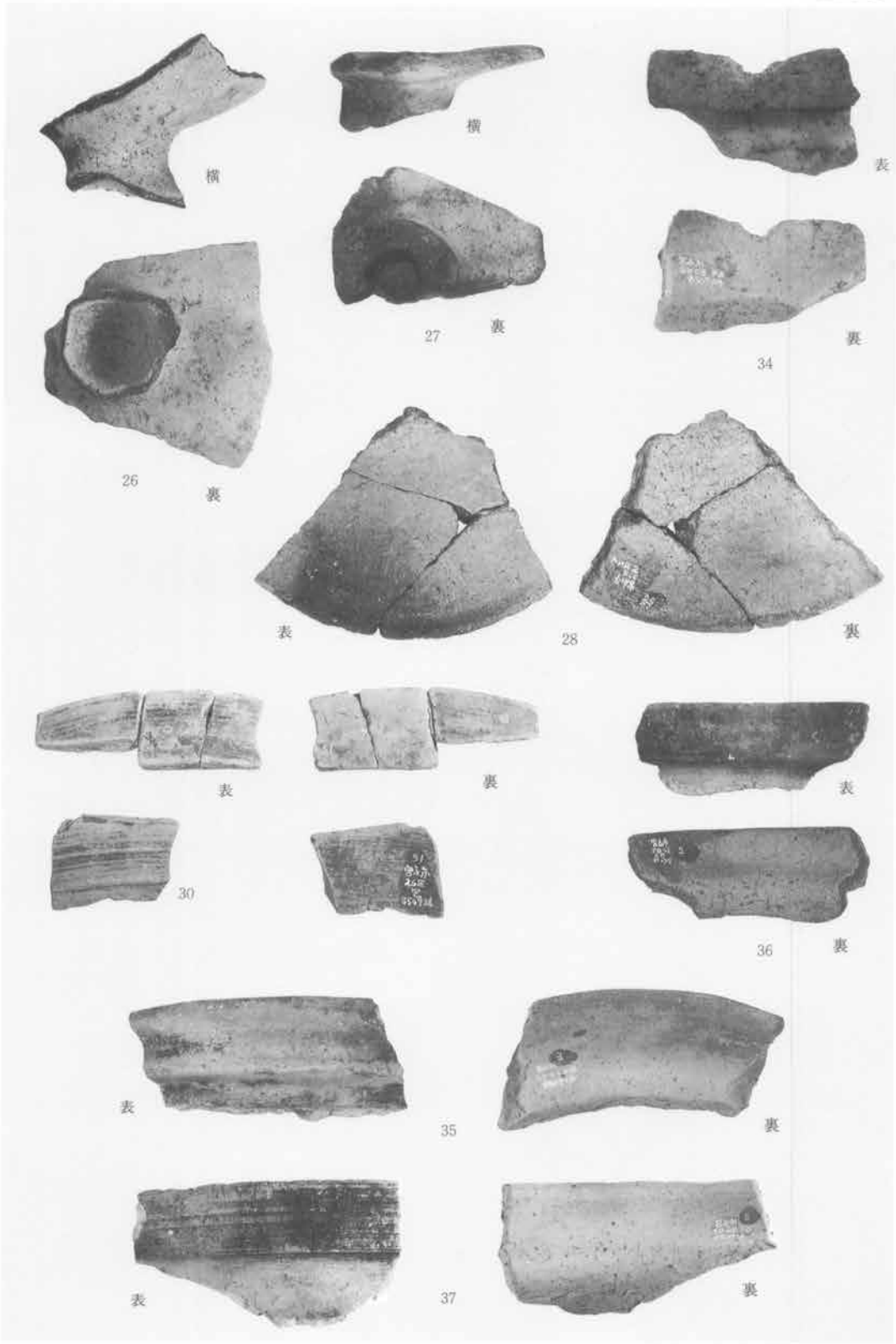
38

裏

表

40

裏


横
横
表
27
裏
裏
34
26
裏
表
28
裏
表
裏
表
30
36
裏
表
35
裏
表
37
裏

表

表

18

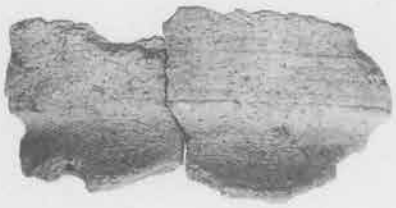
2 裏

裏

3

19

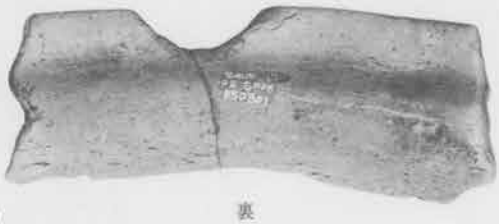
32



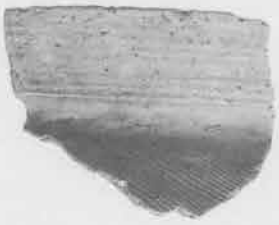
48

表

49



裏



表

50

裏

表

裏

表

54

裏

表

表

5

53 裏

裏

56

29

42

表

45

裏

表

55

裏

表

57

裏

表

59

裏

表

101

裏

表

裏

102

103

104

105

106

107

PL. 38

表

62

裏

108

60

109

内面

61

底面

111

112

113

114

宮永市遺跡

1989年3月31日発行

編集・発行　石川県立埋蔵文化財センター
石川県金沢市米泉町4丁目133番地
〒921　電話（0762）34－7692番(代)

印　　刷　ヨシダ印刷株式会社